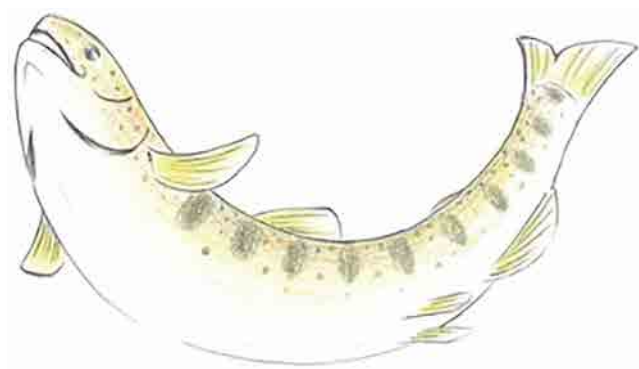


令和4年度

サクラマス・プロジェクト

# キャリア教育 報告集



「アントレプレナーシップ教育」



島根県立吉賀高等学校

# 目 次

巻頭言 .....	1
キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰受賞 .....	2
吉賀高校のアントレプレナーシップ(アントレ)教育とは .....	3・4
3年生 アントレを振り返って .....	5～8
アントレ校内発表会 .....	9～11
アントレ成果発表会 .....	12～16
1・2年生 プロジェクトのスライド .....	17～66
1年間のアントレを振り返って .....	67・68
吉賀高校アントレ 講評	
青山学院大学 教育人間科学部 樋田 大二郎 .....	69・70
大正大学 地域創生学部 浦崎 太郎 .....	70・71
法政大学 キャリアデザイン学部 寺崎 里水 .....	71～73
青山学院大学 教育人間科学部 大木 由以 .....	73・74
日本女子大学 家政学部 樋田 有一郎 .....	74・75
吉高 NEWS Pick Up .....	76～79

# 巻 頭 言

島根県立吉賀高等学校

校長 小林 三 高

吉賀高校のキャリア教育は、平成23年度の高校魅力化事業開始以来「総合的な探究の時間」を中心に、1～3年次の連続性を持たせ3年間で「アントレプレナーシップ教育」に取り組んできています。

「アントレプレナーシップ教育」は1～3年の3カ年にわたる「総合的な探究の時間」の柱となるよう、1年次「アントレⅠ（課題発見期）」、2年次「アントレⅡ（課題解決期）」、3年次「アントレⅢ（課題発展期）」という流れで計画し進めております。また今年度7月には「3年生アントレプレナーシップ教育最終発表会」を開催しました。3年生は1～3年1学期までの取組を総括し、自分自身の成長を自分の言葉で語ってくれました。今年度は昨年度以上に探究色を強めた本格的な学習として「アントレプレナーシップ教育」を推進しています。

今年度の「アントレプレナーシップ教育成果発表会（1・2年生）」は午前中（第1部）吉賀高校を会場に生徒が9ブースに分かれ、それぞれのブースで生徒一人ひとりが発表しました。午後（第2部）は六日市体育館を会場に各ブースの代表者発表という形式で実施しました。地域の方や町内の中学生、東京の大学の先生に参加していただき、大勢のギャラリーを前にしましたが、生徒たちは慌てることなく、堂々と発表してくれました。ご参加いただいた皆様からは、発表内容や態度もよりレベルアップをしているという概ね高い評価をいただきました。このことは生徒にとって「大きな学び」であり「自信」に繋がるものであります。また、このことを糧として、今後もいろいろなことに「チャレンジ」してほしいと願っております。

また成果発表会の翌日には、吉賀町教育委員会主催の「サクラマスプロジェクトフォーラム2023」が六日市体育館で行われました。本校の卒業生が現況報告と今後のビジョンについて語ってくれました。また、地域単位での協議もなされ、吉賀町の学校教育と社会教育が一体となる盛大な会となりました。本校のキャリア教育が、吉賀町サクラマスプロジェクトの一角として、吉賀町社会教育にも効果的な役割を果たしているとしたら大変うれしく思います。

本冊子は、「アントレプレナーシップ教育」の報告集です。生徒たちが1年間探究してきた地域課題とその解決策等をまとめたものです。今年は全員がスライド形式で自分の努力や成長を語り発信してくれました。それによって生徒個々の中にまた一つ「学び」が蓄積されたと感じています。これからも探究活動の成果がより具体的で実現可能な内容になるよう深めていってほしいと願っています。

最後になりますが、連携をいただいている青山学院大学、法政大学、大正大学、日本女子大学の諸先生方、そして日頃からご指導いただいております地域の皆様に心より感謝申し上げます。巻頭のご挨拶といたします。

## キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰受賞！

これまで本校で取り組んできた「小・中・高の連携」や『教科学習や探究学習と「キャリア・パスポート」とを資質・能力ベースで関連づける研究』を通して、キャリア教育の充実が図られていると評価され、この度「第15回キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受賞しました。

本校では3年間を通して「キャリア・パスポート」でルーブリックを活用しながら資質・能力ベースで自らの学びを振り返って言語化し、その後の目標設定をするという取り組みをしています。そして作成した「キャリア・パスポート」は、生徒自身の進路実現や発表会、町内小学校との交流に役立てるなど活用をしています。

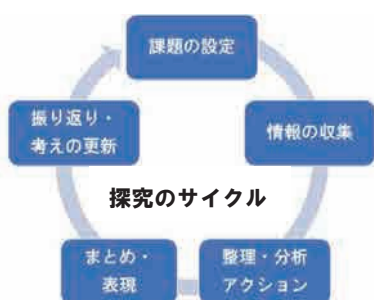
また、「キャリア・パスポート」を教科学習ともつなげていけるよう校内研修を実施したり、町教委と連携し小・中・高での連携を深め、地域で子どもを育てる環境づくりを推進しています。

今後もキャリア教育を通して、生徒のみなさんが自身の学びを振り返り、次の目標設定を行う力を高めていけるよう教育活動の充実を図ってまいります。



## 吉賀高校のアントレプレナーシップ教育（アントレ）とは

吉賀高校では総合的な探究の時間を「アントレプレナーシップ教育（通称アントレ）」と称しプロジェクト型探究学習を行っています。アントレプレナーシップとは「起業家精神」を意味しますが、この変化の大きい不確かな時代に、仕事が無いなら自ら創るマインドとスキルを身につけるための授業と位置づけ、「未来を創る力」を育成する探究学習を展開しています。この授業の中で、自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そして地域社会における需要（Need）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、地域をフィールドとして実践に移し、探究のサイクルを回していきます。



今年度、新課程の1年生はアントレが2単位（週2時間）になり、様々な活動が充実しました。テーマ設定に入る前に、地域を知り社会を知る意味で、RESASを用いて吉賀町について調べたり、SDGsのワークショップを実施したりして視野を広げました。そのうえで、1年生はまず探究の型を習得することと、協働する力を身につけることを重要視し、興味関心に応じて9つのグループに分けられました。ここでまた新たな取り組み

として、せっかくこれまでの先輩方がアントレでいい取り組みをしても単発で終わってしまってもったいないという課題がありましたので、テーマによっては先輩たちのプロジェクトを引き継ぎながら、自分たちの個性を活かしてプロジェクトを進化させ、実践していく形式にしました。

また、青山学院大学・法政大学との高大協働研究を1年生対象に行い、大学生と交流しながら探究学習を深めてきました。コロナ禍で中止となっていた対面での交流がようやく復活し、8月下旬に吉賀町に大学生が、10月には東京に高校生が訪問し、それぞれの地でフィールドワークを行いました。オンラインで顔合わせをしたり、打ち合わせをしたりもしましたが、やはり実際に会って話をしたり、一緒に出掛けたりする中で対面でしか味わえない喜びと刺激をもらいました。年間を通して、多様な視点からの意見やアドバイスをもらい、壁打ちしてもらいながら、沢山の学びを得ることができました。



一方2年生は、週1時間という少ない時間の中で、それぞれに試行錯誤し、アントレを進めてきました。大学生交流が無い学年なので、今年度からNPOカタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」に参加し、茨城県立小瀬高校、宮崎県立高千穂高校、第一学院高校とのオンライン交流を定期的に行いました。県外の高校生たちと交流し、互いの探究活動を知ることができ、刺激を受けたようです。また、今年度東京研修に行くことができたので、その際に大正大学地域創生学部の大学生と交流し、

アントレについての情報交換などもしました。また、石見オロチ CORE ハイスクールネットワーク構想の中で県教育委員会から提供されたオンライン探究システムを活用し、県内の有識者とオンラインで意見交換をし、アドバイスをいただく機会に恵まれました。限られた時間の中でも、様々な場面で視野を広げることができました。

3年生は7月に最終発表会を行いました。それぞれの3年間のアントレを振り返り、自身の成長や後輩へ伝えたいことなどを堂々と発表してくれました。中には就職試験、受験勉強と並行して、アントレの活動を継続する生徒もいました。そして2学期末には、「サクラマス・とく！」で町内全小学校に出向き、人生について語り、小学生と交流をしましたが、小学生の気持ちを考えながら、言葉を選んで自らの学びを振り返り語る姿はとても輝いていました。



本校のアントレは地域の方々の協力があってこそ成り立っています。どのプロジェクトも、地域の現状を聞き取り、プロジェクトを考え、様々な方にご協力いただきながら実践に移しています。また、大学生と一緒に地域のリアルに触れ、机上の空論ではなく地に足の着いた学びを展開できているのは、お忙しい中でも時間を割いていただき、高校生・大学生に機会と場を提供いただいている地域の皆様のおかげです。

2月の成果発表会は午後の部を3年ぶりに六日市体育館での実施としましたが、当日は中学生を始め、地域の方々にも多数ご来場いただきました。代表9名の発表をじっくりと聞いて励ましのお言葉をいただきましたこと感謝申し上げます。また、日頃より本校のアントレにご協力いただいている大学の先生方にも当日にご来場いただき講評していただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

昨年度より、2月の成果発表会は個人の発表としています。午前中には高校生一人ひとりがアントレを通して感じたこと、壁にぶちあたったこと、成長したことなどを自分の言葉で語りましたが、多くの発表で「自分一人では到底無理だったけど、チームのメンバーや地域の方、先生方に協力してもらって実践につながられた」というような言葉が見受けられました。本当にたくさんの方々を支えられて行ってきたアントレですが、今年度の高校生たちのプロジェクトの内容、アントレを通じての学びや成長をまとめたスライドをこの報告集には掲載しております。個人ではなくプロジェクト毎の報告になりますが、吉高のアントレの発展のため、これからもご助言・ご協力をお願いいたします。



## 3年生 アントレを振り返って

### ■アントレについて

私の1年次のアントレのテーマは、「産業」で、「吉賀町産業の発展計画」という活動をしました。私たちは、「吉賀町はイベントやお店が少なく、人があまり集まらないから、産業などでお金を循環させて吉賀町を発展させたい」という思いから、このアントレを始めました。そこで私たちは、吉賀町のふるさと納税について調べると、納税額1位の宮城県都市には納税品が896種類もあるのに、吉賀町は76種類しかないことを知りました。吉賀町の産業を発達させるために、ふるさと納税の商品を作るということになりました。

はじめ私たちは、『吉賀町は、無農薬のお米が有名なので、お米を使った化粧水を作ろう』と考えていました。ですが地域商社に行き、地域の方々にお米の商品のデメリットを教えてくださいました。そのデメリットは、『お米には消費期限があるということ』、『化粧水は人によって、あう、あわないがある』ということでした。もう一度私たちが考え、吉賀町の自然を生かせる、直接手に触れることができる、有効期限がない、というメリットがあり、木を使った商品を開発しようと考えました。しかし、開発までいわずに1年生のアントレは終わりました。2年生になり、メンバーも1年生と合同になりました。多文化共生というテーマで、私たちは、吉賀町にはたくさんの外国の方がおられるのにも関わらず、外国に触れることがあまりないので、私たちが外国の方の役に立つことで、より住みやすい吉賀町になるのではないかという仮説を立てました。そのために吉賀町に住んでいる中国の方に吉賀町に住んでいて困っていることを聞きました。すると、「キヌヤなどのお店は日本語で書いてあるので、探すのが大変だ」ということを言っておられました。それをきき、私たちはキヌヤに中国語表記を作れたらいいなと思いました。2年生のアントレはそこまででおわりました。3年生になり、そのまま引き継ぐことにしました。キヌヤに中国語表記を作ることを実行するために、キヌヤさんにお話にいきましたが、中国語表記を作るのは、七日市店だけ特別に作るというのは難しいと言われてしまいました。そこで私は考え、キヌヤに中国語表記を作るのが難しいなら、キヌヤのマップを作り、中国の方々に配布すればよいのか！と思いました。

2・3年のアントレでは「吉賀の自然」というテーマを軸にアントレを進めていきました。2年生の時は吉賀町のシンボルでもある“コウヤマキ”を使ったスプーンを作ることに取り組みました。実際に町の方に頼んで山の中で倒れていたコウヤマキを無料いただき、ほかの地域の方に頼んでその木を加工していきました。結局完成させることはできませんでしたが、コウヤマキについてはもちろん、町でモノづくりをしている方のことなど多くのことを知ることができました。3年生の時は2年生からの題材である「コウヤマキ」を広めるというテーマでアントレに取り組みました。町外の方にも広めたかったのですが、まずは吉賀高校の生徒であまりコウヤマキについて知らない子たちに知ってもらおうと思い、実際にコウヤマキを見に山登りをするイベントを計画しました。コウヤマキについて詳しく知っている町の方に解説してもらいながら登りました。登り終わった後には、地域の方と一緒にこのイベントについての反省会やこれからの課題について深く話し合うことができました。

2年生と3年生のアントレ活動では、買い物代行サービスという活動をしました。このプロジェクトでは、1年生の頃の経験や学んだことを生かしながらプロジェクトを進めることができました。最初、私達は手押し車を手づくりし、買い物に困難を感じている高齢者さんのお宅に商品をお届けするというプロジェクトにする予定でした。このプロジェクトを進めるにあたっての情報をいれるために吉賀町社会福祉協議会にフィールドワークにいきました。そこで、このプロジェクトを大きく変えるきっかけになりました。私達がやろうと思っ

ている買い物代行の内容を社協の方にお話しすると、リモートで行う買い物代行のアドバイスをいただきました。そのリモートで行う買い物代行の内容とは、買い物に困難を感じておられる高齢者さんのお宅にタブレット端末を持った高校生とお店にいてスマートフォンを持ちながら店内の様子や商品を写す高校生の二手に分かれ、買い物代行を行うものです。買い物に行けなくても自宅で買い物気分を味わえるこの方法はとてもいいものだと思います、吉賀町社会協議会の皆さんの協力をお借りしてこのプロジェクトを進めていくことになりました。買い物代行の予行練習やそのほかの細やかな決め事などをして実際に買い物代行を行いました。当日を迎えるまで、様々な準備は大変でしたが、利用者さんに「ありがとう。助かったよ。」と言ってくださった時このプロジェクトを実現するまで大変だったけど、グループの仲間と頑張ってきてよかったと心から思いました。そして、誰かの困りごとを少しでも軽減してあげたいという思いから始まったこのプロジェクトが私達の行動と地域の方々の協力が合わさることで思いが形になったことがとても嬉しかったです。

### ■学び・挑戦・成長・身につけた力、その根拠となるエピソード

私が2・3年で身に付けたアントレの力は3つあります。1つ目は想像力です。想像力がなければ給食提供までたどり着けなかったと思います。2つ目は判断力です。もともとペルーについてのPR動画を作る予定でしたが、時間がなく急遽ポスターに変えました。臨機応変に対応してくれた班のみんなにも感謝でいっぱいです。3つ目は表現力です。この2年間でいろいろな発表をしてきて、様々なアドバイスをいただきました。特に多かったのは字が見えにくいといった声でした。その声を聞き、スライド作りを本気でするようになり、一年の頃よりかは見やすいスライドになっているんじゃないかなと思います。とそれぞれの力を生かしながら進めることができ、とても安心してながらアントレに取り組むことができました。2つ目は、目的の明確化です。テーマを「モノづくり」にしていたのですが具体的に何をやるかや、それを作ってどうしたいのかなど細かい部分を決めることが遅くなってしまい、スプーンを完成させることができませんでした。そこが個人的な反省点です。3年生のアントレでは、短い期間の中でイベントを実施でき、1人で地域の方と対話をしたり、計画を立てたりし、今までのアントレで身につけた力が生かされたと思っています。

私はいままで、私がやらなくてもだれかがやってくれるから、私がやらなくても大丈夫だと思って過ごしてきました。でもアントレはそう上手いかず、なかなかみんなから意見がでなくて、自分がやらないとなにも始まらないなと思い、今回のアントレではじめて自分からアクションをおこしました。私が中心となってやっていくうちに、いままで自分が苦手だった人前で話すことも、だんだん慣れていき、いまでは人前で話すことが怖いと思わないようになりました。また、人任せにせず自分からアクションをおこすことで、行動力も身につきました。

2年生のときのアントレでは、他のメンバーの発言が少なく、どうしても自分の考えばかりが採用されてしまうということになってしまっていたので、自分から他者の意見を聞きだして取り入れるようになりました。また、班のまとめ役であったため、メンバーに指示を出したり、現状を整理して今後の作戦を練ったりするということを多く経験しました。その結果、以前よりも、状況を整理する力、状況把握能力、判断力が身に付きました。加えて、急遽予定が変更するというトラブルも経験したため、臨機応変に対応する力も少し身に付いたように感じます。

### ■地域をフィールドとし、地域の人たちと交流したり協働したりすることの意義について

私は地域をフィールドとし、地域の方とかかわることで3つの力が身につくと思います。1つ目は地域の課題発見力です。吉賀町といえば「少子高齢化」というイメージが強いと思いますが、もっと深く掘り下げてみると高齢化の中でも「空き家が増えていくこと」



や「お年寄りの一人暮らしが多いこと」など具体的な課題がたくさん見つかります。そういった発見を重ねていくと、町の知らなかった部分が見えてきたり、新たな人とかかわったりして新しいものに触れることができると思います。2つ目は、コミュニケーション能力です。わたしは基本的に地域の方と話す役割をしてきました。最初は戸惑いもありましたが、先生がいない状況で話す場面が増えていくにつれて、だんだんと慣れることができました。1年生の時よりも格段に人と話す力がついたと思います。3つ目は協働する力です。2年生の時のアントレでも話しましたが、同級生が1人もいないなかで後輩のたちと協力しながらアントレを進めることができました。また、生徒との協働だけではなく地域の方との協働のおかげでアントレを進めることができたこともたくさんありました。様々な方との関わりを通して、3年間のアントレができたと思います。

地域をフィールドにし、協働することで身につく力は3つあります。一つ目はコミュニケーション力です。地域の大人と話すことで自然と言葉遣いも身につくし、自然としゃべれるようになるはずで、二つ目は交渉能力です。アントレは交渉が必要不可欠です。たくさんの交渉をし、断られてもそれもまた良い経験になると思います。怖がらずに交渉してみてください。三つ目は発言力です。コミュニケーション力の時にも言ったように大人と話すことで自分に自信がなかった私でもたくさん話せるようになり、発言力が身に付きました。

地域をフィールドとし、地域の人たちと交流したり協働したりすることの意義は、社会でのコミュニケーションを高校生の段階で体験できるということだと思います。早いうちに体験することで、自主性が芽生えたり、社会における自分のポジションや自分の得意なことを発見できたりすると思います。また、高校生自らが町をつくり、変える貴重な機会になるという点も私は大きな意義であると感じます。なかなか若者が主体となって町をつくっていくことはないので、生徒と町のお互いに良い刺激となると思います。地域の人々と関わることで、高校生側から何か作用して、活性化につながるということもあるかもしれません。

### ■アントレで学んだこと、高校で学んだ教科学習との繋がり、自分の進路へのつながり、これからもっと深めたいこと、新たに生まれた疑問など

実際に活動するに当たってその場所に住んでいる人にしかわからない吉賀町の課題やいいところを聞くことができます。アントレのプロジェクトを決めたり活動を始めた時には次に何をすべきかのヒントをもらうことができます。また、地域の方たちの温かさや優しさに触れることができ、今より吉賀町の良さに気が付くことができます。

私は最初、アントレでも将来のことでもしたいことがなくてずーっと悩んでいました。しかし、アントレで地域を盛り上げたり、地域の有名なものをどうやったら広めることができるのかなどを試行錯誤していくうちに、将来こういう風に地域の課題を見つけ、それを改善していくための方法を学びたいと思うようになりました。高校の間では吉賀町がフィールドでしたが、これから先はまた別の場所をフィールドにしてそこで新しい知識や考え方を身につけ、また吉賀町をフィールドに町を盛り上げていけたらと思っています。

アントレでは1年次も2年次も「モノをつくって活性化させる」活動に取り組んで来ました。その結果私は、将来の夢は決まっていますが、現時点では創作活動への興味が強まっています。さらに、1年次に、吉賀町の伝説を題材にしたプロジェクトを進めていたことから、吉賀の地域に眠る伝承を絵や図鑑として形に残し、魅力を伝えるPR活動をしたいと考えるようになりました。しかし、自分のやりたいという気持ちだけではいけないので、伝承・伝説の魅力伝え、活性化させることで町にどのような利益があるのかなどを大学で研究し、さらにその分野を深めていこうと現時点では考えています。



# 2022年度 アントレ校内発表会

2022.12.15 (Thu) @ 島根県立吉賀高等学校  
 ~1・2年生の25プロジェクトが大集結!~

## アントレは未来を創る

これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと（Want）と、出来ること（Can）、そしてその需要（Needs）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

今日は、大きな探究のサイクルという【まとめ・表現】に当たります。しっかりと結果に向けて、プロジェクトについて話してください。そして、2月の発表に向けて、改めて改善したりするべき点を明らかにしていきましょう。

そして、お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を話し合ってください!

## 本日のタイムテーブル

時間	内容
13:40 - 13:50	オープニング
13:50 - 14:50	グループセッション①
14:50 - 15:00	休憩
15:00 - 16:00	グループセッション②
16:00 - 16:10	学びのまとめワーク
16:10 - 16:25	講評・クロージング

### グループセッションの進め方

- 発表 5分
- 質疑応答 5分
- ふせん渡し 1分

各グループ 5プロジェクト 2セッション

## 発表プロジェクト一覧

学年・チーム	メンバー	プロジェクト名	学年・チーム	メンバー	プロジェクト名
1年-A1	高久ゆう 加藤智寿 橋本梨月 藤本由佳 小笠原実希	放課後サクラマス	2年-5班	村上こころ 遠本菜	アート×よしか
1年-A2	小島歩衣 中村心菜 花本小春	吉賀町のイベントや吉賀生の活躍をSNSで発信しよう!!	2年-6班	中村歩夢 新井学志朗	マイナースポーツを通して友達の輪を広げよう!!
1年-B	岩本さやの 田中環佑 藤田時	多文化共生	2年-7班	山本佳奈 松本美咲	電で送るまちづくり
1年-C	新藤真央 沖田慶花 松本美夢 村上高愛	高齢者の笑顔が溢れる吉賀町に!!	2年-8班	浅花理香 小田聖弘 桐原美音 三浦悠希	HEICHI KAKINOKIを仕上げよう!
1年-D1	伊藤優菜 村上遥香 矢野七海 山田陽	高津川プロジェクト	2年-9班	齋藤夢結 田丸美	吉賀町のゴミの課題
1年-D2	高橋真真 浪花拓斗 植田花聖 後谷遥輝	鳥獣被害	2年-10班	清水彩香 永田真帆	写真部を活かした活動をしよう!
1年-E1	眞賀杏奈 手島弘太郎 正木あづま 竹島雄雄	柚子特産品化計画	2年-11班	坂崎愛菜香 三浦彩乃	LPTAS~放課後一緒に遊ぼう~
1年-E2	新田光輝 秋田歩太 水村莉子	映画で啓蒙し~放課後された様にも~	2年-12班	松谷春輝	サッカーを通じて吉賀高PR
1年-F	田中金羅 岩本理乃 岩崎碧 平野大和 松本健太	吉賀PR	2年-13班	北川風貴	動画を活用して地域を盛り上げよう!
2年-1班	河内隼 長井春香	防災	2年-14班	河野歩輝	エトアんでセカイ
2年-2班	石田康大 宮本琴衣	公園改善!	2年-15班	土田阿子 仲野快弥	有機農業で食品開発
2年-3班	江谷聖空 前田大 小畑裕一組	小学生を対象とした学びの場をつくらう	2年-16班	伊藤聖竜	食品ロスの削減
2年-4班	河内花穂 野村あずさ	アットホームな吉賀町へ			

## 評価について

今日の発表は、次の3観点で評価していきます! (3つの観点のレベルは、次のページのリブリックを確認してください)

- 探究の内容
- スライドの工夫
- 発表の仕方

### ふせんの使い方

上の3観点で、良かったこと(青)・気づいたことや疑問(黄)などを書いて、発表後に渡してください。

【ブルー】改善点 疑問点  
 【ピンク】良かった点

## 評価ルールリブリック

ルブリック	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	目指す力
探究の内容	・その探究テーマにした理由が書かれていない ・情報を収集し、アクションも書かれていないが、本場にもニーズがあるかは不明 (探究のサイクルを全く理解できていない)	・その探究テーマにした理由が書かれている ・情報を収集し、アクションも書かれているが、本場にもニーズがあるかは不明 (探究のサイクルを表面的に理解している)	・情報収集を複数行い、分析を行っている ・ニーズが明確になり、誰かのためにアクションを実行している (探究のサイクルを理解している)	・情報収集を複数行い、詳細に分析している ・誰かのためにアクションを実行し、その効果を確認している ・次への具体的なプランを提示している (探究のサイクルを本質的に理解している)	【思考力】
スライドの工夫	・情報が整理されていない ・文字ばかりでグラフや写真がない	・情報が整理されているが、グラフや写真などが使われていない	・情報が分かりやすく整理されている ・グラフや写真が効果的に使われている	・情報が分かりやすく整理されている ・文字の大きさやグラフや写真が効果的に使われている ・過度でないアニメーション等を使っている	【表現力】
発表者の伝え方	・発表者が緊張やスクリーンのみを見つけている ・声が小さく聴き取りにくい	・発表者が緊張やスクリーンのみを見つけている ・聞き取りやすい声の大きさで話している	・発表者が緊張やスクリーンのみを見つけている ・聞き取りやすい声の大きさで話している	・発表資料以外の情報も加え、ポイントを整然と発表している ・聴衆の力を借りて十分な量で話している ・聴衆とやり取りしながら、熱意を持って発表に引き付けることができる	【表現力】

## ワークシートA (観客手用)

発表を聞いて感じたこと・発見したこと・興味を持った点・疑問点をメモする

■プロジェクト名: \_\_\_\_\_

◎発見された点(青)・気づいたことや疑問(黄)

観点	レベル
アントレの理解	1・2・3・4
スライドの工夫	1・2・3・4
発表の仕方	1・2・3・4

◎聞いてみたこと(黄)

◎聞いてみたこと(青)

## アントレは未来を創る

TO BE CONTINUED...

## アントレ校内発表会を通して（教職員・来場者の感想）

### ■発表内容・テーマ・発表形式など

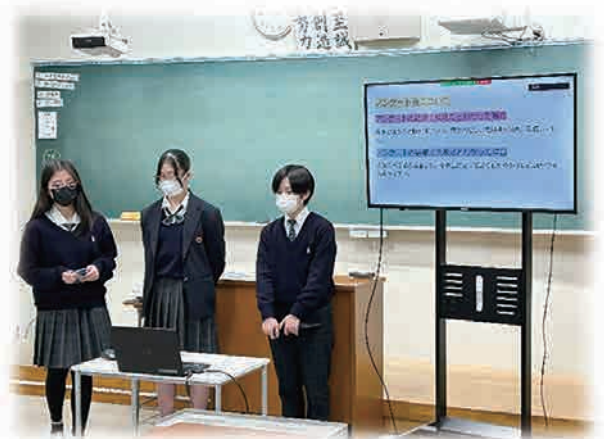
- ・ 2年生は個人グループが多かった。彼らに聞くと昨年のを踏まえて自分のやりたいことを自由選べてよかったと言っていたので1・2年を合体した昨年度のやり方より今年の方がよかったと思う。東京研修やFWがとても有効的に活かされたものが多かった。
- ・ 昨年、一昨年度に比べると格段に活発に活動した様子で、内容が濃かったように思う。以前にあったテーマを引き継いでいるものがあり、大きなテーマとして今後も発展させながら継続していくといいなと思った。
- ・ 1年生はまだ異なるグループ同士でもテーマに類似性があり、棲み分けが難しそうな印象を抱きました。比べて2年生の方は内容がバラエティに富んでいたため、今の1年生ももう少し経験を重ねてテーマに独自の色が出るのが楽しみです。
- ・ 論文のように仮説を立てそれを検証するための実践をして振り返り、再チャレンジ…まとめ方は違いますが基本路線はしっかり分かりました。
- ・ スライドについては凝ったものも多く、熱心に作成した様子が多く見られた。活動したことや言いたいことが多いためか、文字が多すぎるスライドも多かった。次回に向けて、端的にまとめて見やすくするのも大事かと思う。

### ■生徒の様子など

- ・ 質疑応答では、質問する方も的確なものを質問していたし、答える方も内容についてしっかり説明していてよかった。3年生のアドバイスも質問も鋭く下級生のこれからの活動にとって良いものになったと思う。
- ・ 実際はもう少し紆余曲折あったのかもしれませんが、「はじめは〇〇をしようと思っていたが、フィールドワークで誰々に◇◇と言われたので、◇◇をすることに変えました」という説明が多かったように思います。聞いているだけだと、人に言われたことを鵜呑みにしすぎている印象を受けてしまいます。自分たちの活動の実際の（或いは認識上の）経過がそのような表現になってしまうことについて、もう少し振り返る機会があっても良いのかなと思いました。

### ■全体の感想・今後に向けて

- ・ 大人でも動画発信、編集は難しいのに挑戦しているのが素晴らしい！梓にはまらず、高校生らしい発信を期待します！！
- ・ 特に2年生はもっともっとたくさんやってみて失敗して成功してまたやってみてという繰り返しが必要かなと思いました。ホンモノにより近くなるので。
- ・ 全体的に素晴らしかった。やりっぱなし感や発表だけ体裁を整えた感もあまり無く、よく活動した様子だった。成功や立派な発表をすることだけが目標となるのではなく、失敗を恐れず活動し反省改善していくのが学び、と自覚できるようなアントレになっていくと更にいいと思う。





令和4年度



# アントレプレナーシップ教育 成果発表会

日時

2023年

2月10日(金)

13:15 ~ 16:00

会場

吉賀町民 六日市体育館

コメンテーター

岡山学院大学 教育人間科学部

樋田 大二郎 教授

大正大学 地域創造学部

浦崎 太郎 教授

奈良大学 キャリアデザイン学部

寺崎 里水 教授

岡山学院大学 教育人間科学部

大木 由以 教授

日本女子大学 家政学部

樋田 有一郎 学術研究員

こちらもぜひご来場下さい！

サクラマスたちが輝くまちをめざして  
「吉賀町サクラマスプロジェクト  
フォーラム2023」

日時 2023年2月11日(土)

13:00~16:30

場所 吉賀町民六日市体育館

●サクラマスからのメッセージ & 質問タイム

●地域のみんなで作・戦・会・議!

●講演 文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部

総括研究員 志々田まなみ氏

私たち吉高生が  
吉賀町をフィールドに  
流した汗・涙・笑顔・  
カラフルな学びの成果  
を語ります!

お気軽に  
ご来場下さい!



イラスト  
「アイディア掲載版」  
古賀真穂 編集歴1年  
原田 玲  
田中 穂希

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し実施します。ご来場の際は消毒・マスク着用をお願いします。

お問い合わせ先：TEL 0856-78-0029 吉賀高等学校

# 2022年度 アントレ成果発表会

2023.2.10 (Fri)

私たち吉高生が  
吉賀町をフィールドに  
流した汗・涙・笑顔  
カラフルな学びの成果  
を語ります！

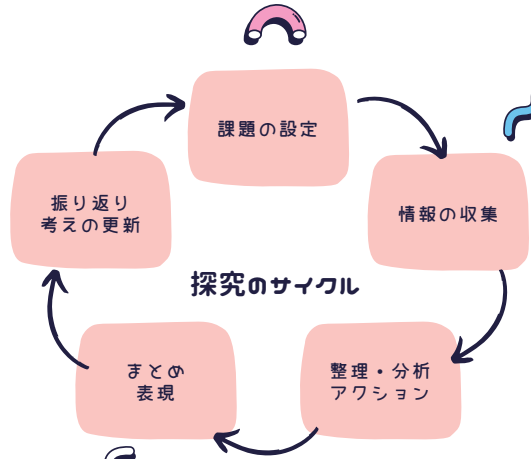
島根県立吉賀高等学校

## アントレは未来を創る

これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと（WILL）と、できること（CAN）、そしてその需要（NEEDS）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

今日は、大きな探究のサイクルで言うところの【まとめ・表現】に当たります。しかも、これまで「チーム」で発表でしたが、今日は「個人」です。しっかりと聴衆に向けて、あなただけのアントレについて熱く語ってください。

お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、より良い未来を一緒に創っていくために意見を出し合ひましょう！



## 評価について

探究プロジェクト

自分探究

スライドの工夫

発表の仕方

### 付箋の使い方

付箋については上記の観点で気づいたこと・アドバイス・感想などを書いて、発表後に発表者へ渡してください。

※ミスの指摘というより、より良くするにはの視点で、コメントを書いてお

## 評価のルーブリック

ルーブリック	レベル1 (2点)	レベル2 (3点)	レベル3 (4点)	レベル4 (5点)	目標すか
探究プロジェクト	プロジェクトの目的や理由が伝わらない 情報を収集できていない	プロジェクトの目的が明確である 情報を収集し、アクションも考えられているが、本筋に繋がりの二要素が揃っていない 目的や理由が伝わる	情報を収集を複数回行い、具体的に分析をしている ニーズが明確になり、誰かのためにアクションを実行している	情報を収集を複数回行い、客観的に分析をしている 誰かのためにアクションを実行し、次に具体的なプランを提示している	【思考力】
自分探究	自分の興味関心が伝えられていない プロジェクトが他人事	自分の興味関心とプロジェクトのつながりが伝わる 自分の説明は実践できている	自分が得意な事や、自分の得意な役割がチームやプロジェクトに貢献していることが分かる 1年間のアントレの中での自分のストーリーを語ることが出来る	情報や体験からの自分の変化や成長を言語化できている 自分と地域、社会とのつながりや、将来へのつながりが見えている 自分の課題や今後取りたいことが言語化できている	【振り返り 学ぶ力】
スライドの工夫	情報が整理されていない 文字ばかりで写真や図表が少ない	情報が整理されストーリーになっている 写真や図表などが使われていない	ストーリーに沿って情報がわかりやすく整理されている 文字の大きさが適当で、写真や図表が少し使われている	情報が整理され、ストーリーの中心の伝えたい部分の強調が分かる工夫がある 文字の大きさを工夫し、写真や図表の工夫がたぐりあっている	【表現力】
発表者の伝え方	発表者が原稿（紙芝居）のみを見ている 伝え方が小さく構構みがある	原稿を見よとはしているが、原稿を見よとはしていない 伝えられるべき大きさではあるが、構構みがある	原稿以外の情報も加えながら発表している 聴衆の方を向いて十分に声で伝えることができる	原稿以外の情報も加え、平たい原稿を見よとはしながら発表している 聴衆とやりとりしながら発表し、思い思いで発表に巻きつけることができる	【表現力】

ルーブリック表を目安にししながら、世界に1つだけの「2022年度の私のアントレ物語」を作ろう☆

## アントレ成果発表会を通して

### ■生徒の感想（1年生）

- ・今回この発表をみんなにしてみても達成感を感じることが出来ました。足りないところも色々あったけれども、自分のやりたいことをしっかり言うことが出来ました。これからは吉賀高校から吉賀町をPRできるようにしていきたいので、来年もこの活動を続けていきたいと思いました。



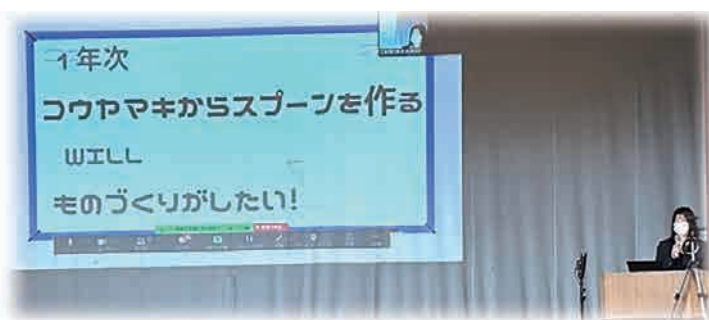
- ・今回は発表するまでの段階で原稿を何度も読み直したり、スライドの修正を重ねたりしました。今までの発表で1番緊張したし、工夫しました。今まではグループのみんなで協力してスライドを作ったり、原稿を考えて分担して発表をしていたので、沢山やる事があって大変でした。でも、その分自分自身の考えや、思いをみんなに伝えることができとても良かったと思います！

- ・今回初めて1人で人前でプレゼンして、すごく緊張して、声が出にくくなってしまった時がありました。しかし、自分が今回の目標としていた、セリフを見ずに喋るという目標が達成できたことはひとつの成長に繋がったかなと思いました。また、代表者の発表がほんとに凄すぎました。私がもしあのステージに立ってしまったら、正直あんなふうに素晴らしい発表が出来ない気がしてしまいました。でもやっぱり出来ないといけないことだと思うので、これからのアントレを通して、そこの自信もつけていけたらいいかなと思いました。また、もっと質疑応答にすぐに答えられるように、質問の理解力や判断力を私はもっとつけていく必要があると、このアントレ発表で感じたので、そこの所も成長させられるようにできたらいいなと思いました。でも思っただけじゃダメなので、ちゃんと行動に移していけるようにこれから頑張ります。



### ■生徒の感想（2年生）

- ・今回の発表会を通して自分以外の人々のアントレの発表を聞き自分のプロジェクトに生かせるようなこともたくさん知ることができた。自分の発表をいろんな人たちに聞いてもらって様々な意見やアドバイスをもらうことができ、とても充実した時間になった。



- ・色々な人の発表をみて感じたことは自分のことや、プロジェクトを客観視しているなと思いました。自分のことを分析し苦手だけで終わらず、これからどうこうして改善する。など具体的にかいていて見習いたいなと思いました。代表者のほとんどが





大学教授の難しい質問に対しその質問の答えだけではなくそれプラス分かりやすく詳しく応答していて凄いなと思いました。多分自分だったらアタフタしてしまい出来ないです。でも、出来るようになりたいと切実に思いました。自分自身の発表を振り返ると中間発表の時よりだいぶ良い発表だったんじゃないかなと思いました。それは、声もそうですが周りを見る回数を増やしスライドの文字をこれでもかっ！と言うくらい大きくしたり

したことからそう思いました。その考えは大学生交流で学んだ第三者のことを考えて分かりやすく伝えることを活かすことが出来ていると思いました。

- ・私たちの学年は2年生合同でやっていたので1年生個人の発表を聞いて、こういう風にアントレをしてフィールドワークや東京研修で活動をしていたんだと思いました。1年生も一人一人頑張っていて2年生ではやっていないようなプロジェクトもやっていたのすごいと思いました。個人の発表ではこんな私ですが代表に選んでいただき、初めてあんな大勢の前でアントレの発表を一人でしました。私はパニックになって頭が真っ白で噛んでしまったりして上手く発表ができませんでしたが講師の方が評価してくれてとてもうれしかったです。講師の方の質問にしっかり答えることができなかつたのでそこは反省点だと思っています。ですがとてもいい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

## ■教職員の感想

- ・昨年と比べると益々レベルアップしていると思いました。しかし、立派に発表することに重点がいき活動内容や学びは実は薄い人も多いのでは？と感じました。また、活動で失敗してもそこから学びを得られたらOKという雰囲気をもっとあるとよいと思いました。



失敗は非、上手くいくことが正ではなく、上手くいかなかったのは何故だろうと考え次の行動に繋げていくことが学びという意識がもっともてるといいと感じました。発表でも表面を取り繕うのではなくそのような高校生らしい学びにもっと触れてほしいです。

- ・様々な活動に興味をもって取り組むようになりました。型にはまった同じような流れの発表が多かったように思いました。もっと個性があっても良いのかとも思います。この形式が定着してきてとてもいいと思いますが、さらに町民を巻き込む次の一手も考えていなくては思いま



す。

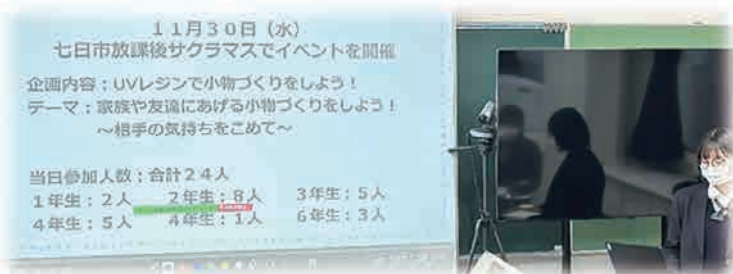
- ・内容はよかったのでテーマをもっと工夫するとよい。社会性のあるテーマを吉賀で実践しようとするアントレがよかった。非常によく、深く研究しており、ぜひ商品化すると良いと思った。食品ロスを利用しての肥料作りは継続して取り組んでほしい。



- ・前半は学校、後半は六日市体育館で行うとバス移動などが大変だが、あんなにも多くの地域の方や中学生に発表を聞いてもらえてよかったと思う。来年は時間が許せば、地域の方や中学生からも意見や質問がもらえるような働きかけがあるといいと思う。

## ■来場者の感想

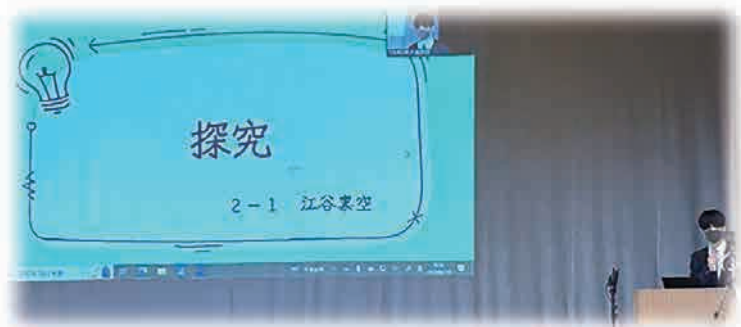
- ・大きなイベントにまず驚きました。また、入学生たちがこの活動を目当てにやってくるといったことを聞いてさらに驚きました。他校の課題研究や各種発表と比べても遜色なく、むしろ内容の完成度は高かったとの印象を持ちました。内容的なところも「起業家精神」・・・をテーマとしているところで、他の課題研究等と一線を画すようなオリジナリ



ティが感じられました。また地元の産物と結びつけて、商品化へとつなげるプロセスが、様々な切り口があり、とても興味深く参観しました。大学の先生とともに行うと、ともすれば大学の先生の色が強くなり出たりするかもしれませんが、生徒たち自身

のオリジナルの発想・着想だとの印象が強に残りました。今後ともますます発展されることを陰ながら応援しております。

- ・とにかくアクションを起こすこと、探究を始める前と後との自らの変容や、探究を通して学んだこと、成長したことを言語化して発表することによる振り返り等、大変勉強になりました。また、地域との連携がうまくいっている学校のひとつと聞いていたので、やはりオンラインではなく、ライブで感じる事ができたのがよかったです。また、この学びがスムーズにキャリア育成と結びつき、この後のキャリア教育や進路指導に結びついているのも勉強になりました。感心したのが、大学の先生の質問に対して何とか自分の言葉で答えようとしていたところです。かなり難しい質問が多かったですが、答えにならないまでもあきらめずに受け答えしているところにとっても好感が持てました。先生方とも普段からコミュニケーションがしっかりとれて、よく話し合っていることがうかがえます。あと、地域の方々や中学生がたくさん聴講者として参加していることも驚きました。聞けばコロナ前はもっと多かったとのこと。地域一帯となって教育活動を行っている雰囲気を肌で感じました。研究発表の内容については7月まで行い、7月末に発表会を行うと聞きました。内容的にはこれからのものも多かったもので、7月がどのようになるのか楽しみです。



# 放課後サクラマス

A1班  
加藤那菜 高久ゆう 小豆澤果鈴  
橋本菜月 藤本由佳

## なぜこのプロジェクト？

前…子どもが好き、子どもと関わりたい

今…最近はお家にもってゲームをする子が増えている！  
子どもたちに充実した放課後を過ごしてほしい！

## きっかけ

最近の小学生は放課後ゲームばかりしている

放課後も友達と楽しい時間を過ごしてほしい

放課後サクラマスという活動に参加させてもらおう

活動の企画をやらせてもらうことに

朝倉小放課後サクラマスで「校内謎解きゲーム」を企画

## フィールドワーク

- ・朝倉公民館：能美さん、斎藤さん
- ・高尾の森わくわくビレッジ：管野牧夫さん
- ・七日市公民館：茅原さん、糟谷さん
- ・七日市、朝倉小放課後サクラマス

## フィールドワークでの気づき・発見

### 朝倉公民館

- ・人気の遊びは運動や昔遊びが人気
- ・工作になると自由に作っていて、面白い作品もある

### 高尾の森わくわくビレッジ

- ・都の支えが充実している
- ・プロジェクトのヒントになる活動を見つけることができた

## フィールドワークでの気づき・発見

### 七日市公民館

- ・どんなことに気をつけたら良いか
- ・吉賀高校でも活動ができる

### 七日市、朝倉の放課後サクラマス

- ・子供たちで協力しながら活動していた
- ・竹馬作りでは竹馬をマスター

## 調査後に考えた仮説・プロジェクト

小学生が充実した楽しいと  
思える時間を作る!!!

## 実践!!

12/19

## 朝倉小学校の放課後サクラマス

「校内謎解きゲーム」  
⇨校内の至るところにある謎解きの紙を  
小学生2人、大人1人で解いていくゲーム

## 上手く行ったところ

- ・地域の人と小学生が協力しながら活動していた
- ・12/19当日は企画が上手くいくか不安だったが成功した
- ・準備期間が短かったけど成功した

## 上手く行かなかったこと

2回目の謎解きの配置に時間がかかって2回目の時間が短くなった

→時間を少し多めにする

クイズとクイズの答えがバラバラになってわかりにくかった

→クイズとクイズの答えに番号をつける

## これまでのアントレで気づいたこと・学んだこと

- ・子どもたちとの接し方  
→ゆっくり目を見て話す
- ・高校生にしかできないことがあること  
→地域の人達を巻き込む力

・自分たちでは気付くことができなかった吉賀町の良さがあること

→色々な人が協力してくれる、人脈が広い

・子育てに対する町の援助が充実しているため子育てしやすい

## アントレを通しての振り返り

**加藤** アントレの活動を通して学び成長したことは色々あったのですが特に、自分が成長したと思うことは、意見をたくさん出して言うことが苦手だったのですが、発言する機会が増え前より自分からアイデアや意見を言うようになったことです。

**藤本** アントレを通して私が伸ばせたことは、意見を言うことです。アントレを始める前は意見があっても他に人が言ってくれるから言わなくていいと思っていたけど、アントレでは意見を言わないと話が進まないし、意見を言うことで、色々な事を発見することもあり、とても充実したアントレの時間を過ごせたと思います

## アントレを通しての振り返り

**橋本** アントレを通して、色々な人と関わることができました。自分は人と関わることがあまり得意ではなかったけど、この活動を通して、苦手ではなくなりました。

**小豆澤** アントレの活動を通し、今まで以上に様々な人との関わりが増えました。自分の意見だけでなく他の人の意見も聞いてみたり、一緒になって考えることができ、良い刺激になりました。また、自分が今できることを考えながら行動するようになりました。

## アントレを通しての振り返り

**高久**

アントレの活動は、初めて経験することが多くて勉強になることがたくさんありました。私は積極的に動くことに苦手意識を持っていて、アントレの活動を通してそれを少し克服できたのが、特に自分の中でも大きいなと思います。

## お世話になった方々

朝倉公民館：  
能美 勝臣さん 斎藤 心咲さん

派遣社会教育主事：  
中村 浩志さん

七日市公民館：  
茅原 美里さん

青山学院大学：  
碓井 咲希さん 米岡 花さん

高尾の森わくわくビレッジ：  
菅野 牧夫さん

ありがとうございました。

## 吉賀町のイベントや吉高生の活躍を SNSで発信しよう！！

1年 A2班 小倉歩友 中村心美 花本小春

## ～私達が思う吉賀町の課題～

吉賀町の知名度が低い！！

→吉賀町の良さを知ってもらえてない  
保育費や給食費、医療費の無償化、  
豊かな自然など

↓  
SNSでアピールしよう！！

## ～最初に考えたプロジェクト案～

目的：吉賀町の良さをたくさんの人に知ってもらう  
内容：私達が実際に交流して、その姿を  
SNSで発信しそれと一緒に吉賀町の良さも発信する

## ～第一回フィールドワークに试试看～

Q 吉賀町のどんなところをSNSでアピールするといいいのか

A 吉賀町にしかない行事や場所、自然などの、  
吉賀町ならではのことも

Q 吉賀町の一番の課題

A 自分の幸せがなにか分かっていない人が多い！

↓  
吉賀町ならではのことで幸せになっている人の  
姿を発信しよう！！

## 東京フィールドワークで学んだこと

人と人とのコミュニケーションを大切にする！  
(たくさんの人と関わることの大切さをきちんと理解する！)



たくさんの人が関われることをしよう！  
イベントを開催しようかな？！

## ～10月のフィールドワークで分かったこと～

吉賀町役場にお話を聞きに行った！

そこで、イベントを開催するまでの流れを教えてもらった！

## ～調査を終えて～

結局私たちの作りたい未来は…??

↓  
吉賀町を知ってもらって楽しんで欲しい！

↓  
そのためには…??

↓  
吉賀町の魅力に気づいてもらおう！！！！

## ～私達のプロジェクト案～

Instagramで吉高生の活躍や、  
吉賀町の魅力を発信する！



～実際にやってみて～

良かったこと

- ・アカウントをフォローしていない吉賀町の人に届いた！
- ・方言を入れたので、親しみやすいものになった！

改善点

- ・あまり多くの人に知られていない
- ・まだほとんど投稿ができていない

～今の状況～

- ・次参加するイベントを探している
- ・吉賀町の綺麗な景色をさがしている
- ・もっと工夫した投稿の仕方を考える

～これまでのアントレで学んだこと～

いちばん大切なのはコミュニケーションをとること！

↓

より多くの人に関われるようにする！

↓

吉賀町の魅力に新たに気づく人が増える！  
もう一度吉賀町の魅力に気づいてもらえる！

小倉 歩友

アントレを通して、たくさんの力を伸ばすことができました。私は人と話すことが苦手だったけど、フィールドワークで地域の人や大学生の方とか関わっていくうちに自分から話せるようになりました。今後の活動に繋げていきたいです。

中村 心美

私はこのプロジェクトを通して、人とのつながりの大切さを感じました。アントレをやっていく中でたくさんの地域の方や、大学生の方々と関わって来ました。アントレは生徒だけの力で進めることはとても難しく、たくさん助けてくれる大人が周りにいてくれることにとても感謝しています！

花本 小春

アントレの活動を通して学んだことは社会の礼儀を学べる事が出来ました。訪問先への方への電話の時など、丁寧な言葉で言えるようになりました。ほかにも、訪問先への方との名刺交換など、自分の方が名刺を下にして渡すなどの礼儀を知ることが出来ました。このことを社会に出たらとてもいかせると思うし、これからのアントレにも繋げていきたいです。

青山学院大学 梅谷ゆみこさん 平島ねねさん 工藤まおさん  
七日市公民館主事 糟谷直輔さん  
東京おもちゃ美術館 事務局長 副館長 馬場清さん  
吉賀町企画課 野村一恵さん 石川匡哉さん

協力してくださって、ありがとうございました。

# 多文化共生 給食プロジェクト

1年 B 班 田中璃珀 原田玲 岩本さやか

## このテーマを選んだ理由、きっかけ

- ・メンバーの全員が文化に興味があった。
- ・メンバーの全員が町外生で、吉賀町に受け入れてもらった側として吉賀町の多様性をより良くしたいという気持ちで活動している。

## 最初のプロジェクト案

- 内容** 文化についての授業・給食の提供
- 目的** 差別をなくす

## フィールドワークで分かったこと

**8月26日**  
吉賀町食生活改善推進協議会

- ・食改の方が食事と料理を楽しんでいる
- ・出汁の作り方



**10月5日**  
墨田区異文化交流会  
(フィリピン出身の方とも交流)

- ・知らないから差別が起こる。
- ・異文化に対する「差別をなくす」ではなく、「異文化を広める」に変更

## フィールドワークでわかったこと

**10月11日**  
吉賀内の栄養士の方々

- ・小学生が普段どんなものを食べているのか
- ・給食のメニューを考える上での注意点

**10月26日**  
KDC(株式会社オレンジページ)

- ・想像と違いすぎると印象に残りにくい
- ・なぜ多文化共生をテーマに活動しているのか、改めて考える機会になった。

## 私達のつくりたい未来

**目標**  
異文化同士のコミュニティの輪を広げる。

**仮説**  
異文化についての理解を広めることで、いじめや差別が減るのではと考えた。

## 仮説

- ・常識や、こうあるべきという考えが固まる前の小学生くらいの子どもに文化の違いがあることを知ってもらえば、将来大人になっても偏見を持ちにくいかも知れない。
- ・フィリピンの方に教えてもらった「知らないから差別が起こる」ということを参考に、まず知ってもらうために授業をしたらいいのでは。
- ・文化を知ってもらう上で、給食を食べてもらうだけでは定着しにくいと考え授業をしてみる。

## プロジェクト案

**対象**  
小学生(3~6年生の計14人)

**場所・内容**  
蔵木小学校・異文化についての授業・フィリピン料理を給食で出す

**時期**  
給食週間(1月24日~30日)  
1月26日木曜日に決定

## 授業案

単元の時間	授業時間	内容	主担任	授業の趣意	小学生	小学生の働き
5	5	自己紹介・進め方の説明	原田玲	軽く自己紹介をして、今日の授業の目的、授業の流れを説明	個人	
20	15分	クイズ	原田玲	・問題文 1分程度 ・シキングタイム 10秒前後 ・回答と解説 1分 ※上を繰り返して全問解答7問		進捗式の理解のために暗算に暗手を求める
35	15分	利き出汁	田中璃珀	出汁は高校で作って持参 3種類の出汁 ・説明 3分 ・配る 5分 ・シキングタイム 2分 ・回答と解説 5分	班分け	スケッチブック等に授業 学習進捗の記録(3種)
40	5	異文化についての紹介	岩本さやか	外国や日本の各々の文化を説明 東京緑線の学びを紹介 給食に出てくるメニューの紹介	そのまま	班分け状態のまま聞いてもらう
45	5	まとめ	原田玲	アンケート回収お願い		アンケートは後で配布

クイズ:身近なことをテーマに  
利き出汁:日本の出汁、韓国のお出汁、コンソメを使用  
(違いがわかりやすいため)

## 実際に出してもらった給食



## 小学校の給食コラムに載せさせてもらった

こんにちは。1月26日の給食は多文化共生をテーマに活動している吉賀高校1年生が考えたフィリピン料理です。多文化共生とは、違う文化同士と一緒に仲良くしているということです。世界には様々な人がいて、様々な文化があります。みんなと仲良くすることは難しいかもしれませんが、少しずつ自分と違う人や文化を知って色々な人と仲良くできる未来が来るといいなと思い、この活動をしています。私達が東京に行って勉強したときにフィリピンの方にお話を聞きました。このとき、差別やいじめは相手のことをよく知らないからおきてしまうと教えてもらいました。その話を聞いて、まず違う場所の文化について知ってもらうことが必要だと考えました。食事はどの国でも必要とされています。なので、フィリピンの料理を食べてもらおうと、吉賀との違いがわかりやすいと思います。今日のおかず『チキンアドボ』はフィリピンでよく食べられているそうです。今回の給食をきっかけに、少しずつ外国や吉賀以外の文化にも興味を持ってもらえたらいいなと思っています。

## 実際の授業の様子



## アンケート結果

授業 楽しかったという意見が多かった。

- ・国内でも違う文化があるのが面白いと思った
- ・またやりたい

給食 美味しいという意見が多かった。

## プロジェクトの成功・失敗

給食プロジェクト⇒成功

アンケート結果を受けて

実際に参加・体験してもらうことが大切

↳印象に残りやすい

授業の時間が余った⇒失敗

## この活動全体を通しての成功・失敗

### 成功

- ・目的としていた文化について知ってもらうということは達成できた。
- ・今年度中に活動することができた。

### 失敗

- ・文化について知ってもらうことを重視しすぎて多文化共生という目的を達成できなかった。

## これからプロジェクトの進化

・今回の活動で達成できなかった多文化共生という点を重視して、一年間の中で複数回授業や、給食に他の文化を取り入れるなどする。

・今回は食という面で文化を伝えたが、他のやり方で文化について伝える。

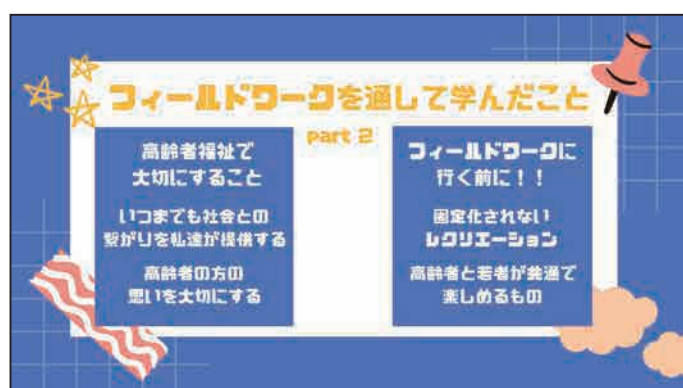
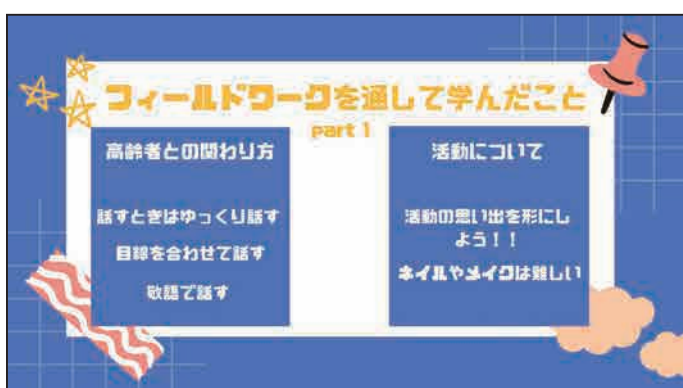
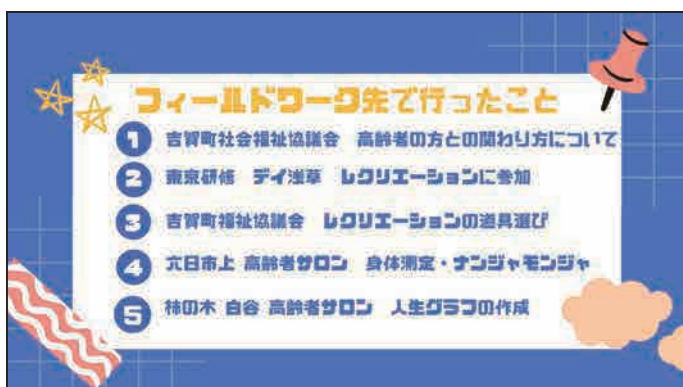
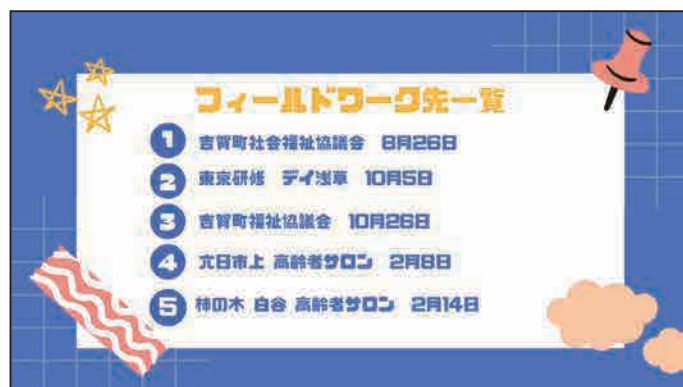
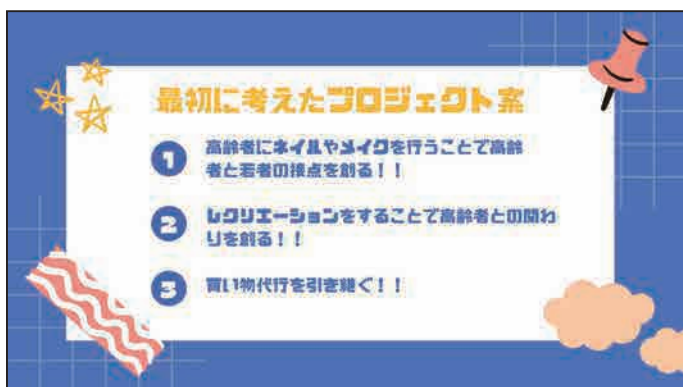
・文化についての知識を深め、自分のやろうとしていることについての理解を深める。

## お世話になった方々

- ・吉賀町教育委員会 藤本幸子さん
- ・吉賀町食生活改善推進協議会 三浦まり子さん他2名
- ・すみだ異文化交流会 刈谷仁路志さん
- ・吉賀町内小学校の栄養士の方々
- ・KDC (株式会社オレンジページ) 岡根屋美里さん 佐藤崇行さん
- ・吉賀町立蔵木小学校の先生方
- ・法政大学 野瀬文也さん 栗山花菜さん 小川美波さん

お世話になりました。  
協力してくださりありがとうございました。





Good Job!!

フィールドワークを通して見えた私達の最終的なアントレ案

well done!

私たちのcan  
 高齢者の方のneed  
 私たちと高齢者の方のwill

Good Job!!

フィールドワークを通して見えた私達の最終的なアントレ案

well done!

私たちのcan → メイゴやネイルを高齢者の方へすること  
 高齢者のneed → 高校生が高齢者サロンに来ること  
 私たちと高齢者のwill → 手軽に高校生が出向けるレクリエーション!!

Good Job!!

フィールドワークを通して見えた私達の最終的なアントレ案

well done!

↓

高齢者の皆さんに継続的にレクリエーションを行う!!

Good Job!!

実際に行ったレクリエーションの様子

山根 田丸

well done!

Good Job!!

実際に行ったレクリエーションの様子

穴日市上

well done!

実際にサロンに行ってみて

良かった点

- 高齢者の方が暖かく迎えて下さった
- 高齢者と高校生が一緒に楽しめるレクリエーションができた

悪かった点

- 時間配分が難しい!
- レクリエーションのマンネリ化

一年の振り返り

アントレの活動を通して人に相談することの大切さ学びました  
 相談することでプロジェクトがどんどん実現に近づきました!! 新年度を通してうまく行かないことも沢山あったけど、最後はみんなで色々なことを学び、生かせてよかったです。松本  
 この1年間のアントレ活動を通して高齢者の方と一緒にレクリエーションをしたりお話ししたりして、とても楽しかったし学ぶことも沢山あって良い経験になりました。村上  
 この1年間、アントレを通して喧嘩することもありましたが、無事プロジェクトが達成でき、自分にとって学びの多い1年でした!! 沖田

お世話になった方々

社会福祉協議会 澄川恵美子さん 松本源太郎さん  
 山本雄一さん 包葉菜さん  
 青山学院大学 大塚花夏さん 山田礼華さん  
 ティモ草 尾上優子さん  
 渋谷区社会福祉協議会 内山江里子さん  
 高齢者サロンの利用者の皆さん

大変お世話になりました!  
 ご協力ありがとうございました!!

# 高津川プロジェクト

1年 D1 矢野七海 伊藤柚葉  
村上遥唯 中山明

## GOALS

### PURPOSE

吉賀町の魅力  
で知名度を  
上げて人を呼ぶ

### AIM

高津川の知名  
度を上げる

### MEANS

川の周りでイ  
ベントをする

## FIELD WORK

### FIRST

高津川の支流福川川  
タカラバの河野さんと  
生態系調査

他の川と比べたときの  
高津川の生き物の種類の  
多さや、おなかに吸盤が  
ついている変わった生き  
物などを見ることができ  
た。



← 河野さんと大学生と一緒にガサガサ



↑  
去年から活動を始めた高津川を愛している会  
道庁タカラバのロゴ

## FIELD WORK

### SECOND

東京研修  
渋谷川ルネッサンス  
石井さんと交流

川の魅力は探せば探す  
だけ出てきてきりがな  
いほどたくさんある事  
がわかった。まずは私  
達自身が川のことをも  
っと知ろうと思った。



↑  
蓋をされ、封印された渋谷川



← 石井健蔵さん

渋谷川ルネッサンスの目指す渋谷川→



## FIELD WORK

### THIRD

高津川、高尻  
自らが体験（釣り、鮎の塩焼き、  
鮎飯）

東京研修で石井  
さんに言われたこと  
をふまえ、川の魅  
力を自らが体験  
した。

→  
鮎の塩焼き



←  
釣りの様子



**ACTION**

タカラバ主催のイベントに  
コーナーを持たせていただき参加!!

**川辺でデイキャンプ 11/27**

**内容**

魚釣り、ロケットストーブで石焼き  
芋、豚汁、ぐるぐるパン、あゆ飯、  
最後に次のイベントの参考のための  
アンケートを取りました

→ 釣りを  
する子  
供



↓ 豚汁



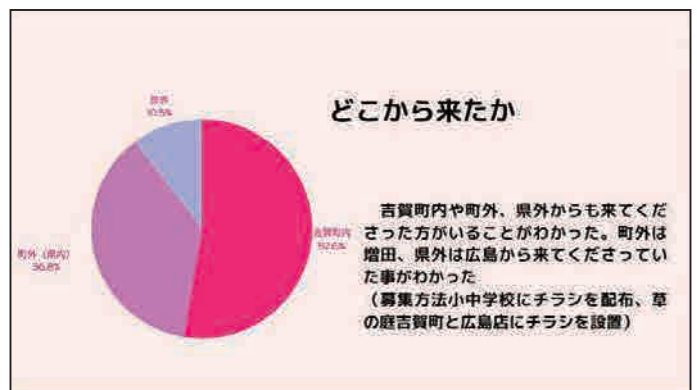
↑ロケットストーブで作った  
石焼き芋



↓ぐるぐるパン



←イ  
ベ  
ン  
ト  
参  
加  
者  
で  
記  
念  
写  
真

**WANT TO DO THIS !!**

- ・川遊び!
- ・あゆを食べたい!
- ・ピザ作り! ...

アンケート結果を参考に  
私達高校生主催の大人も子供も楽しめる  
体験型イベントをしよう!!

第二回 **ピザ作りイベント**

**お世話になった方々**

FW第一回 高津川を愛している会 河野 洋司さん

FW第二回 渋谷川ルネッサンス 石井 健蔵さん

FW第三回 斎藤 勲さん

青山学院大学教育人間科学部 宮島 杏奈さん  
國廣 みなみさん  
金井 愛純さん

## 鳥獣被害について

1年D2班

植田祐聖 齋藤匠真  
浪花櫓斗 湊谷遥翔



## 最初に考えたプロジェクト案



僕達は自然に興味があり、農作物被害の原因であるイノシシを獲り、料理を作りそれを食べたりしようと考えていた。

## 8月26日のFWでわかったこと1

河野成祥さんという普段猟師さんをしている方に話を聞きに行きました。そこで当初考えていたプロジェクトは、猟免許が必要だと聞き実現できないと知りました。

## 8月26日のFWによつての変更点

自分らでとるのは無理だと知ったので、イノシシ肉で料理をして美味しさを広めてみんなが肉を食べたいとおもわせてたくさん買ってもらおうと思った。

## 8月26日のFWでわかったこと

猟師さんもイノシシを獲っても買ってくれる人が少なく売上もあまり伸びないから猟師の数も少ないので、イノシシの数が増えてしまう。



## 10月FWでわかったこと



一大さんに電話でインタビューして、イノシシ肉は2、3時間茹でてから調理すると柔らかくうまくなるとか調理方を学んだ

## イノシシ料理



## 僕達の実践内容

・11月29日にお米を食べる会で猪カレーと串カツをみんなに提供した



## 実践した結果

### アンケート結果

質問1(食べた感想) に対する回答

- ・おいしかった
- ・やわらかかった
- ・臭みがなかった



質問2(猪肉を使った料理は何がいいですか?)  
に対する回答

- ・猪鍋
- ・ハンバーグ
- ・パスタ
- ・焼肉
- ・チャーシュー丼
- ・しゃぶしゃぶ
- ・唐揚げ
- ・すき焼き
- ・シチュー
- ・燻製



## アントレで学んだこと



猪肉をどの料理に使えばいいかを考えて、  
今後は料理のレシピをみんなに共有して  
いきたいし、猪肉をより多くの人に  
使って貰えれば良いと思います。

## プロジェクトを通して学んだこと

イノシシを捕まえるのに免許が必要だとか  
イノシシ肉のいろいろな調理法など学べた  
ので良かったです。

## アントレの活動を通して 伸ばせた力は？

計画力  
感謝の気持  
実行力



## 次からは？

今までは計画して人に任せていたけど次からは  
自分で実行に移していきたいです。

## 頑張りたいこと

行動の範囲を広める！  
もっとコミュニケーションをとる！



## お世話になった方々

和職工房 河野成祥さん  
青山学院大学

熊瀬川小実さん 福村泰史さん 淵上洋大さん  
一大 豊田一大さん  
株式会社クイージ 石崎英治さん

ご協力ありがとうございました！

# ゆず商品化計画

一年 E-1班 貝賀杏奈 竹原慧達 手島弘太郎 正木歩乃佳

## テーマを選んだ理由

わたしたちE1班が商品開発を選んだ理由としては、吉賀町の現状を踏まえたからです。豊富な自然があるのにも関わらずそれを活かし切れておらず、とても惜しいと感じたので、このテーマを選びました。



## 1回目のフィールドワーク(かきのき村)

### かきのき村の方の話

昔に比べ利用されるお客様が減ったので、道の駅を改修し、お客様を集められるようにする。



## 1回目のフィールドワーク(道の駅柿木)

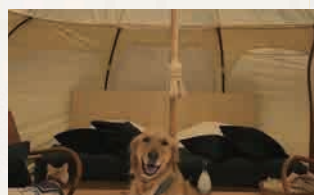
### 私達の意見

- ・グランピングで人を呼ぶ
- ・ドックランなどを作る
- ・ペット用のジャーキーを売る



## グランピングとは

手軽にキャンプを楽しめる施設です。テントの設営、用具の準備などキャンプ入門者の悩みを解決してくれるものです。



## 2回目のフィールドワーク

### (東京研修・川に学ぶ体験活動協議会)

### 川に学ぶ体験活動協議会の方の話

夏は川遊び、冬は登山などをすると1年中グランピングを楽しめる。

川を商品にする以上、危険性を導者を置く必要がある



## 3回目のフィールドワーク

### (東京研修・川に学ぶ体験活動協議会)

### 私達の意見

- ・川を利用したグランピングだけでなく山にも目を向けて吉賀町の自然を活かせるようにする

### やくろの方の話

- ・資金の不足やリスクなどからグランピングには賛成できない
- ・鳥獣被害に遭っている食材に栗やトマト、稲がある。



## 柚子商品化へ

3回目のフィールドワークでグランピングは金銭的な面で実現することが難しいと言われた。



そこで農作物が鳥獣被害にあっていると聞いて、その作物を使って新しい商品開発をしようと思った

被害にあっている農作物  
・栗 ・稲 ・トマト

## なぜ柚子なのか

柚子にした理由としては鳥獣被害にあっている食材だからと、ちょうど旬に被っていたからです。

## ゆずポン酢制作

- ・普通のゆずポン酢
- ・濃口醤油入りのゆずポン酢
- ・オレンジの果汁入りのゆずポン酢
- ・みかんの果汁入りゆずポン酢



## 柚子胡椒制作(柚子胡椒唐揚げ)

- ・柚子胡椒
- ・柚子胡椒を入れた唐揚げ



## 試食会のアンケートの結果

ゆずポン酢 1位みかん果汁入りポン酢  
2位濃口醤油ポン酢  
オレンジ果汁入りポン酢  
4位普通ポン酢



意見

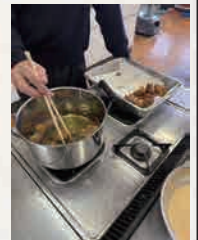
もっと美味しい 柚子が薄い  
味の違いがわからない 酸味が強い などなど

柚子胡椒のアンケートの辛さ、他にどんな料理で使って食べたいかを聞きました。

辛さはほとんどの人がちょうどいい辛さだと答えました。

柚子胡椒を使ってどんな料理を食べたいか

- ・肉料理、鍋料理 ・うどん ・ハンバーグ
- ・ラーメン ・ライスバーガー



## 気づきと実践したこと

気づいたこと

自分たちの力だけではやりたいことは出来ないこと  
周りの大人の力を積極的に借りること

実践したこと

ゆずポン酢の改良  
ポン酢を道の駅で売ること  
柚子胡椒を使った唐揚げを道の駅で売ること  
栗の商品化すること

## お世話になった方々

株式会社 エポックかきのきむら 河野克則さん  
NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 大井里美さん  
吉賀町役場産業課 早田みどりさん  
産直物産館やくろ 井川津多夫さん  
大学生 尾登海斗さん 東條有紗さん 石田柊平さん

ありがとうございました。



まち おこ  
**猪肉で町興し**  
～放置された柿とともに～

GI・BI・E2

1年 秋田歩太 水村莉子 新田充輝



**テーマ:吉賀町の猪肉を使った商品開発**

**このテーマにした理由**

- ・食を通じて吉賀町を活性化させたかったから
- ・商品開発が楽しそうだったから
- ・美味しいものが食べれると思ったから
- ・将来「食」に関わる仕事に就きたくて、なにか食に関して学べると思ったから

**～最初のプロジェクト案～**

目的:吉賀町の特産品を作って街を活性化

内容:吉賀町のジビエ肉を使った商品開発

↓  
**ライスバーガー×ジビエ**



**第1回フィールドワーク**

訪問先 六日市にある吉賀町キッチン

お話を伺った人

タケダ猪精肉店 竹田 尚則さん

吉賀町役場産業課 早田 みどりさん



**↓ジビエに合うようにライスバーガーのタレを改良し、東京にもっていこう!!**

**第2回フィールドワーク(東京研修)**

訪問先 Looking good

お話を伺った人

株式会社GBA 間瀬 頼彦さん

石田 理恵さん



**調査を終えて**

東京のLooking Good に新作のライスバーガーのタレを持って行って試食してもらった

↓東京では味の素が使われていない

↓作ったときより甘かった

反応としてははいまいち.....



**第3回フィールドワーク**

お話を伺った人 吉賀町役場産業課早田みどりさん

↓ライスバーガーを元にした案では厳しい部分も...



↓  
**買いたい=美味しい**



味にこだわった、猪肉と廃棄された柿を使用して商品開発

**実践内容1**

**新しい猪肉ハンバーガーのタレ制作**

★廃棄された柿を使用して2種類のタレの制作

①柿タレ

→ 柿の甘みが猪肉に合いそう

②ゆず+①のタレ

→ 味としてはOKだが、ゆずの風味もっと出したほうがいい

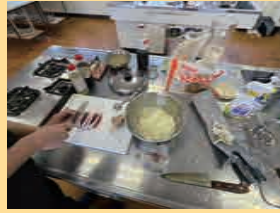


## 実践内容2

柿と猪肉を直に掛け合わせるとどうなんだろう...?

### 柿と猪肉を使ったそばろ製作

- ↳ 柿ペーストの甘みが強すぎた
- ↳ ご飯に合わせて食べた
- ↳ りするのは難しいかも..



## これからの計画

- ・猪肉に合う二種類の柿のタレがいい感じに作れた
- ・ライスバーガーの案とそばろの案はイマイチかも

### 二種類のタレを使い

### 柿と猪肉両方を使った商品の開発

- ・猪肉の部分はコロッケを作ってみよう
- ・二年生からは、具体的な商品化、販売、PR

## 大学生との交流を通して

- ・色々なアドバイスをしてくれた。
- ↳ ライスバーガーのタレの感想
- ↳ これからの計画について
- ・東京研修でのサポート
- ↳ 取材場所やお話を伺うときのアポ取り
- ↳ 東京研修のまとめ資料の制作など



## 1年間のアントレを通しての 気づきや学び



### 1. 実践を繰り返すことの大切さ

実践を繰り返さないと  
どうしても味などはわからない



↓  
食べてみることで良い発見や気づきが見える

↓  
次の商品を作るときに良い商品開発につながる

### 2. 計画を立てることの大切さ



やりたいこと、目指すところを  
明確にすることで

↓  
地域の方々がより協力してくれるようになる  
自分たちがスムーズに活動できるようになる

### 3. 振り返ることの大切さ



実践をする

↓  
まとめ資料などを作って振り返る

↓  
次に何かをする際にスムーズに計画を立てることができる  
より良い計画を立てるのにつながる

## お世話になった方々

吉賀町役場産業課 早田 みどりさん

タケダ猪精肉店 竹田 尚則さん

竹内 知江子さん

株式会社GBA 間瀬 頼彦さん

石田 理恵さん

青山学院大学 3年 本田 小春さん

樋口 実乃里さん

早川 真希さん

吉賀高校 坂田 紀之さん

ご協力ありがとうございました🙏

# 吉賀高校PR



1年F班 鈴木健太 平野大和  
岩本理沙 岩崎碧 田中星羅

## 活動のきっかけ

吉賀町の問題: 人口減少 過疎  
→人の流れが少ないことが理由のひとつ

宣伝で人が訪れるきっかけをつくる  
吉賀町の問題解決に協力したい



## 当初のプロジェクト案

PRの対象:  
10代~30代の若い人、家族連れ  
活動の内容:  
PR動画の作成  
カレンダー作成  
パンフレット作成



## フィールドワーク 1回目

写真家 三浦さん  
カレンダーに使用する写真のコツ

学んだこと  
・技術はあまり必要ない  
・地域の方々と協力する



## フィールドワーク 2回目

東京研修  
IT会社の社内でベンチャーを行っている山田さん  
学んだこと  
・高校生というブランド  
・ターゲットを絞る



## フィールドワーク 3回目

観光協会 斎藤さん  
パンフレット作りについて学んだこと  
・パンフレットの作り方  
・デザインの仕方  
・目を引く方法



## フィールドワーク 4回目

奇鹿神社 宮司の渡辺さん  
学んだこと  
・吉賀町の歴史  
・行事(お祭り、神楽)など



## フィールドワークを終えて

・他では聞けない話を聞いた  
・大学生や地元の人など様々な人と  
関わり、学びに繋がった  
・動画1本に絞ることにした!  
→パンフレットやカレンダーでは  
魅力が伝わりづらい



## 実践！

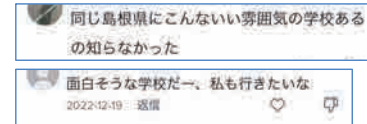
11月4日

- ・校内計6箇所にビデオカメラを設置
- 吉賀高校の日常風景の撮影
- その結果...



## 動画がバズった！！

現在動画を三本投稿  
そのうち1本がのびて約6万いいね  
フォロワー数1500人超  
視聴回数90万回以上達成！！



## 実践を終えての反省・改善

反省点

- 事前の告知が遅くなってしまった
- 写りたくない人への配慮が足りなかった

改善点

- 事前にアンケートで意見などを調査する
- 計画力をつける



## 現在のプロジェクト案

PRの対象: 10代~30代の若い人  
家族連れ(継続)

活動内容: PR動画の作成 & 投稿



## 今後の予定

・動画投稿

TikTokだけでなくYouTubeなど  
幅広くSNSを利用

- 高校の日常の様子
- ダンス
- 教員紹介



## アントレでの学び

・高校生という立場を活かす  
→今回では高校をPRという形で活用

・大学生交流にて、未熟なところに気づけた  
→計画力、客観視



## TikTokのアカウント

是非フォローおねがいします!!



## お世話になった方々

Thanks!!

- ・写真家 三浦なみさん
- ・株式会社PANIRETO主任 山田一輝さん
- ・吉賀町観光協会 斎藤由美子さん
- ・奇鹿神社の宮司 渡辺守広さん
- ・法政大学の熊谷かさねさん、大町蒼さん、山本零さん

## 防災をテーマとしたWEBの作成

1班 2-1 長井尋音 河内慧

## 防災をテーマに選んだ理由

それぞれの地元との防災意識の格差を感じたから



町民の防災意識を調べて、意識の向上につながる活動をしたい

## 一年時の活動

アンケートの作成、実施

有識者へのインタビュー

### 結果

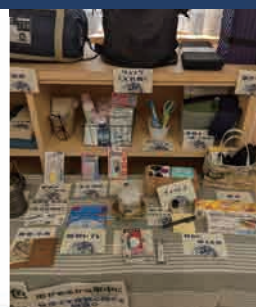
備蓄をしている人は多  
が困り事が多い



備蓄とは何か？が問われた



## 自治体の備蓄品例



朝倉公民館より

## 一年時の考察

防災備蓄を広めたい



困り事の解決



パンフレット作成



## 目標の再設定



紙媒での発信  
(パンフレット)



WEBサイト

## WEBサイトを作る意味

情報の更新が簡単

情報整理が簡単

多くの人に見てもらえる



## サイト案

現在高校アカウント以外は接続できません



## 二年時の活動

イベントへ参加

災害時の外国人サポート

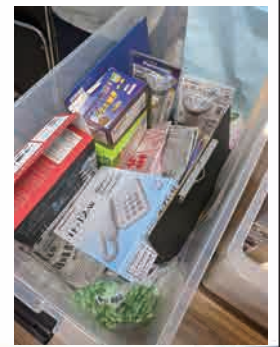


インタビュー

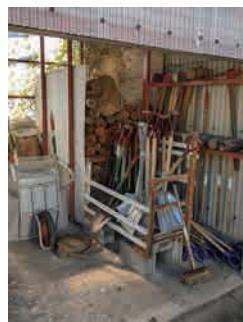
吉賀町の防災について



役場の避難物資



役場の防災倉庫



## 二年時の考察



WEBサイトの作成



防災情報の拡散

備蓄についての情報

## 今後の活動について



サイトの拡散  
イベントへの参加

## 防災・備蓄の要旨

- 一人一人に答えが存在する
- 日常に備蓄品や防災品を溶け込ませる

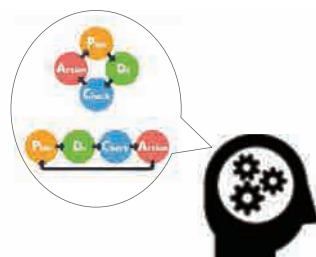


## アントレの活動を通して

計画し実行する力

多角的な視野

終始一貫



## アントレの活動を通して



ネガティブな思考




ポジティブな思考



# 公園改革

## PARK REFORM

2年1組 2班 石田優大  
宮本芽衣



### プロジェクトのきっかけ

1年次のアントレで子どもの遊び場が少ない  
という意見がでた


↓

1年次のアントレではもともと存在するイベントの一部を借りて活動することしか出来なかった

### きっかけ


「自分で遊べる場所をつくる」





### プロジェクトの内容

"吉賀町にある公園に遊具の増築を!"





### 仮説

イベントや子どもの遊ぶ場所、子どもが運動する場所が少ない

↓


イベントや子どもの遊ぶ場所を作ることが子どもの発達、町の活性化に必要であると考えた






しかし  
資金不足…



### プロジェクト内容

<p>企業や役場に協力をお願いする</p> 	<p>商品開発で資金を得る</p> 
---	---



### プロジェクト内容

<p>大型遊具</p>  <p>¥4,600,000</p>	<p>すべり台</p>  <p>¥740,000</p>	<p>シーソー</p>  <p>¥250,000</p>
--	---	---



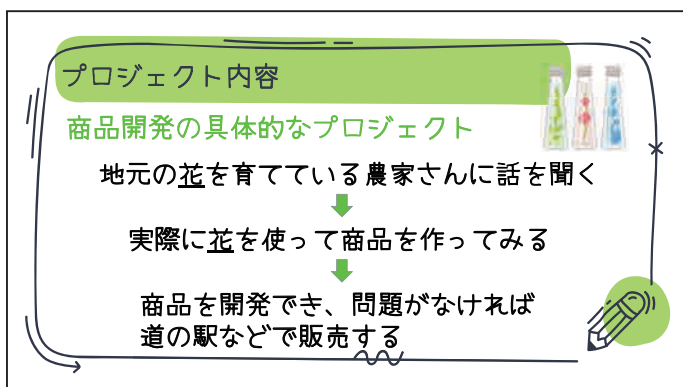


### プロジェクト内容

補助金・支援金

公益財団法人  
ライフスポーツ財団

子ども活動支援補助金  
子ども活動支援補助金 | 公益財団法人ライフスポーツ財団(lifor.jp)



### 3 フィールドワーク

### フィールドワーク

吉賀町役場 企画課 落合さん	アドバイス① もっとたくさん の補助金を 見つける	アドバイス② 何を建築・設 置するかを明 確にする
----------------------	------------------------------------	------------------------------------

### 大学生交流 in東京

大正大学生

アドバイス  
SNSを使って  
活動を広める

@yoshika\_kouenkaikaku

### 学んだこと・感じたこと

- ①失敗したからあきらめるのではなく、**失敗を成功に変える**ための方法を探す
- ②大人の方の力を借りれるだけ借りる
- ③計画を立てて効率よく活動する

### お世話になった方

- ・吉賀町役場企画課 落合さん
- ・吉賀町役場税務住民課 河野さん
- ・もったか花園 小田さん





# 小学生を対象とした 学びの場をつくらう

2年3班 江谷稟空・小田裕一朗・前田大成

## 「仮説」 HYPOTHESIS

私たち高校生が教育的なイベントを開催し、小学生に勉強を教えることで、お互いに多くの学びが得られるのではないか。



## 「きっかけ」 A START

江谷  
教員志望

小田  
小学生と関わりたい

前田  
薬剤師志望

## 「これまでにしたこと」 SO FAR

- 森さんにオンラインインタビュー
- 吉賀町教育委員会主催  
「図書館スタディールーム～夏の特訓」に参加
- 吉賀高校とよしか塾NEXTの共催  
「スタディキャンプ」に参加



## スタディキャンプ



## 「これまでにしたこと2」

- 科学実験教室を計画、運営

## 「科学実験教室」 SCIENCE CLASS



段ボールで空気砲  
 ・煙を使った実験  
 ・原理の説明  
 ・ゲーム  
 理科を楽しく教える



## 「児童の声」 STUDENTS'S OPINION

- 3人が簡単でわかりやすい説明をしてくれて、空気砲で楽しくあそぶことができた
- 空気砲の実験を盛り上げてくれた高校生たちに感謝
- 需要あり



### 「先生の声」 TEACHER'S OPINION

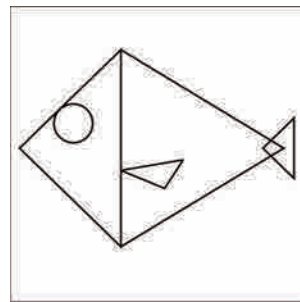
- 楽しい企画をありがとうございました
- 小学生目線で優しくわかりやすい言葉遣いをしていてよかった
- 声が枯れていたのですが、工夫したらもっと伝わりやすくなる



### 「これまでにしたこと3」

- 小学生のクリスマス会に参加して一筆書きのコーナーで交流

### 「クリスマス会」 XMAS



### 「大学生からのアドバイス」 ADVICE

- 小学生と私たちがお互い負担にならないように気をつける
- 教育と交流のどちらに焦点をあてるのか決めたほうが良い



### 「これからのプロジェクト」 NEXT

引き続き教育系のイベントを開催する



### 「活動を通して学んだこと」 STUDY

- プランから実現に移すための準備が大変
- 中学生対象より  
小学生対象の方がやりやすい
- 将来につながる力が身についた
- 考えをかみ砕いて伝えるのは大変  
→今後必要な力に繋がる



### 関わってくださった方へ

七日市小学校 様      六日市小学校 様  
柿木小学校 様      蔵木小学校 様  
朝倉小学校 様      よしか塾NEXT 様  
森 泰紀 様      吉賀町教育委員会 様

ご協力ありがとうございました。

# アットホームな 吉賀町へ

2年 4班 河内花穂 野村あずさ

$E = mc^2$

## ハンセン病とは...

- ・日本の歴史上もっとも古くから知られている。
- ・らい菌が主に皮膚と神経を侵す慢性の感染症。
- ・治療法が確立され現代では完治する病気のこと。

### 仮説・きっかけ

ハンセン病などで様々な差別を受けたことよって吉賀町に帰ってこれない人がいる。

自分たちがそのような現状を吉賀町の人たちなどに動画などを使って発信する。

吉賀町での差別が少なくなり、ハンセン病を患った方が帰って来れるようになるのではないかな。

### FW活動①

### フィールドワーク①

教育委員会: 小山さん

- ・コロナ前まで大島青松園訪問が行われていた。
- コロナ禍で様々な活動がなくなり、人権に関する活動に使える費用(補助金)が余っている。
- ・吉賀町出身のハンセン病を患った方との交流は難しい。

【吉賀町の現状】

- ・現在ハンセン病に対する差別はない。
- ・コロナ差別に対する相談は最近まであった。

### FW活動②

### フィールドワーク②

吉賀町役場: 斎藤さん

- ・ハンセン病や大島青松園の活動について詳しくたくさん教えてもらった。
- 大島青松園は難しいが熊本の菊池恵風園なら訪問できるのではないかな。
- 訪問するなら補助金を使って行くことができるのではないかな、と意見をいただいた。

### そこで私たちが考えるプロジェクトは...

- 1 ハンセン病患者の方と交流。  
↓  
厳しい
- 2 ハンセン病をはじめとする差別を少しでもなくせるような映像制作。
- 3 誰もが帰ってきたいと思える吉賀町にする!!



# アートマップ で 観光振興



(5) 谷上 ころこ 増本 渚

#観光振興 #アート #吉賀町



#私ができること



01.

できること・やりたいこと

- ◎得意な絵を活かした活動がしたい
- ◎絵を描きたい
- ◎美術に関連のある職に付きたい



観光協会 齋藤さん

吉賀町観光協会の齋藤さんへインタビュー



- ◎コロナによるイベントの中止
- ◎観光客の減少
- ◎違う視点で観光をアピールできないが

#フィールドワーク

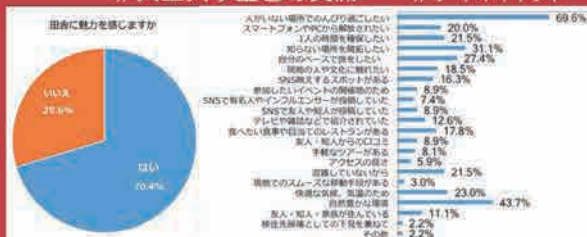
必要としている、イベント以外の  
吉賀の魅力も伝えること  
×  
私のアート

仮定

吉賀を紹介するアートマップを作れば、  
吉賀の観光スポットを観光目的にする人  
が増えるのでは？

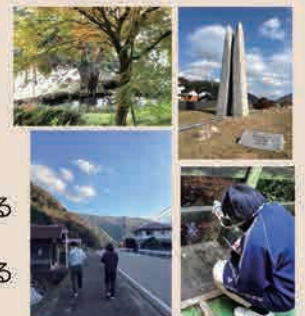
対象は バスで観光する若い世代

#大正大学生との交流 #アドバイス



03. 候補地を調査

- ◎バス停からの距離や各候補地との距離を体感



どの観光地も結構歩く必要がある  
∥  
ウォーキングしながら観光できる

#フィールドワーク #前向きに捉える

## 05. アートマップの内容整理



- ◎ 澄川喜一彫刻の道
- ◎ ポケットパーク
- ◎ 平栃の滝
- ◎ コウヤマキギャラリー
- ◎ 大井谷の棚田
- ◎ 水源公園・水源会館
- ◎ 道の駅やくろ
- ◎ 六日市温泉ゆらら

## ◎ マップに必要な情報をまとめる



## プロジェクトの成功点

- ◎ 計画を立てて、それに合わせて進めた
- ◎ もらったアドバイスをすぐ取り入れた
- ◎ ニーズの調査をしっかりと



## プロジェクトの反省点

- ◎ もっと情報共有をしとけばよかった
- ◎ 悩んだ時、周りに相談したらよかった
- ◎ 調査のための時間がかかりすぎた



## 改善に向けた対策

- ◎ タスクや悩みを共有する
- ◎ マイナスに考えたことをプラスの言葉に置き換えてみる
- ◎ 状況を整理して冷静になる



## ◎ 伝える力

## ◎ 客観視する力

将来に繋げられるように  
この力をもっと伸ばしていきたい



## これからの活動計画



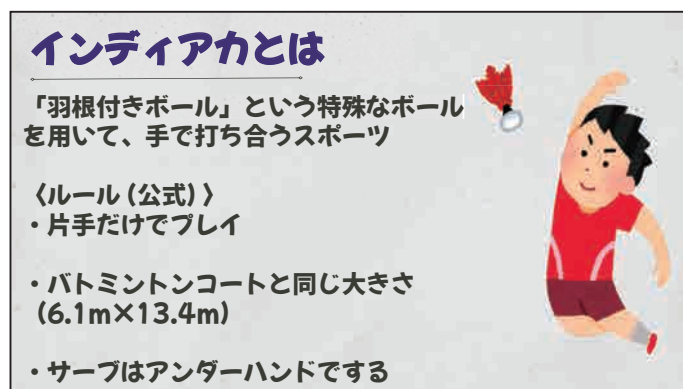
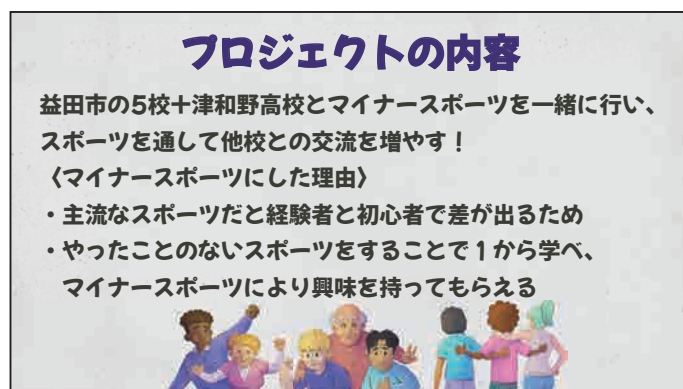
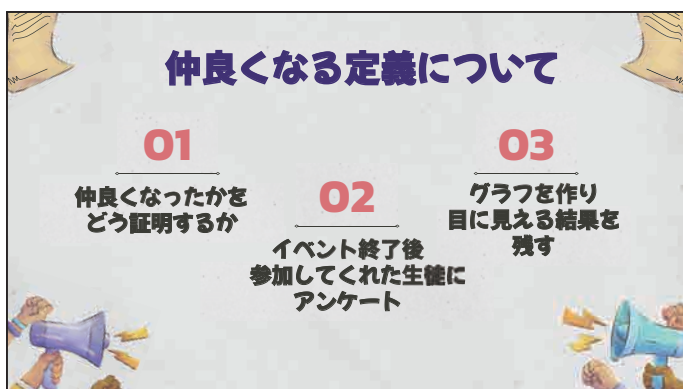
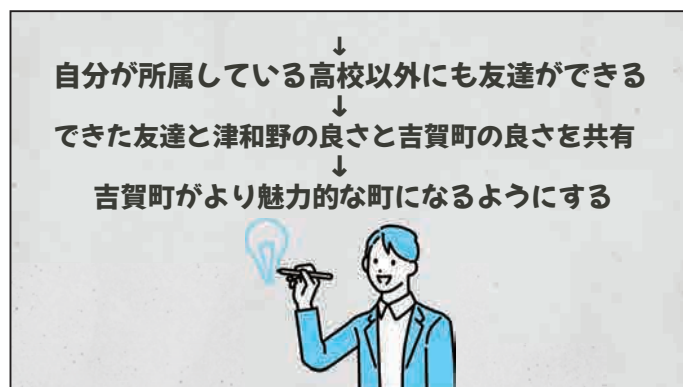
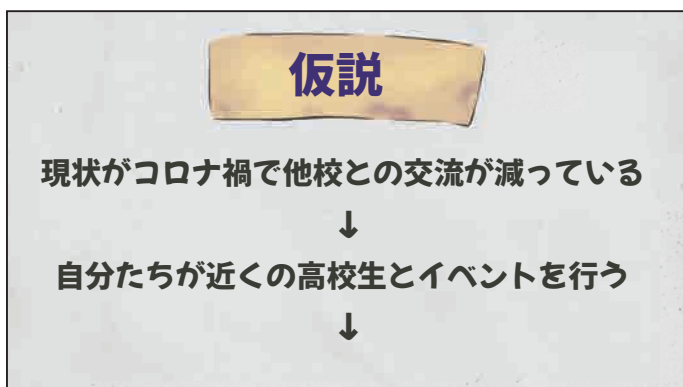
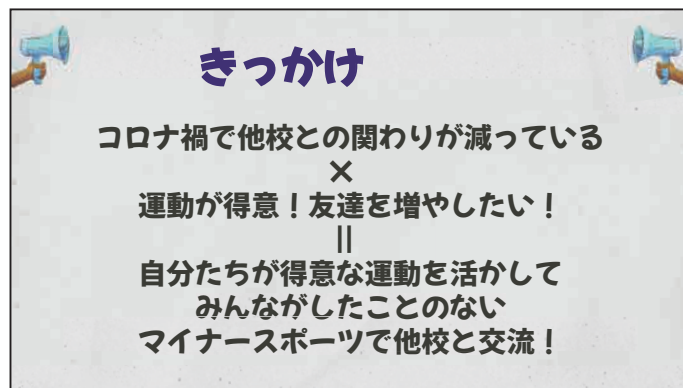
ウェブサイト制作には  
WordPressを活用

- |                               |                          |                     |
|-------------------------------|--------------------------|---------------------|
| ウェブサイトデザイン<br>アートマップ完成<br>3月中 | ウェブサイト完成<br>URL作成<br>4月中 | 観光協会に掲載を依頼<br>5月～6月 |
|-------------------------------|--------------------------|---------------------|

## 観光協会の斎藤さんへ



インタビューを受けて下さり  
ありがとうございました。  
斎藤さんがマップ作りへのアドバイス  
くださったおかげでプロジェクトを進  
めることができました。またご縁があ  
りましたらよろしくお願ひします！



## 辰巳 通さんとのオンライン交流

〈アドバイス〉

- ・新しいスポーツを自分たちで作るのも面白い
- ・養護学校に通っている生徒は、運動の激しいスポーツではなく、運動量が少なく頭を使うスポーツがいい

## ゆるスポーツ

年齢・性別・運動神経・障害に関わらず誰もが楽しめる新スポーツ。

勝ったら嬉しい、負けても楽しい、多様な楽しみ方が用意されているスポーツ。

〈例〉100cm走、点字ブロックリレーなど



スポーツ障害を、世界からなくす。  
世界ゆるスポーツ協会  
WORLD YURU SPORTS ASSOCIATION

## 気づいたこと

- ・自分たちが思う理想と現実が合わない
- ・求めている「友達とは」を考えるのが難しい
- ・失敗すればするほど良い
- ・何を仮説にプロジェクトを行っているのかを忘れないこと
- ・役割分担が大事

## 失敗したこと

各高校の生徒会を中心としてSNSを利用しメッセージを送った

↓  
「いきなり知らない人からメッセージが送られてきて怖い」と連絡を受ける

↓  
先生からの注意を受けた

↓  
先生を通してから生徒へ、企画の内容を伝えるべき

## 学んだこと

- ・苦手なことでもやれば得意になれる
- ・第三者からの意見をもらい、広い視野を持つことが大事
- ・インディアカを実際にして、してくれた人の感想を聞く
- ・相手の気持ちを考える
- ・失敗をしても良いと思ってアプトシをする

## 現在の進行状況

- ・インディアカの羽根を入手
- ・交流をするにあたっての意識調査アンケートを制作
- ・呼びかけポスターの制作

## 今後の予定

- ・津和野高校に行き自分たちのプロジェクトを発表
- ・津和野高校との交流を行うにあたっての場所と日時の決定
- ・津和野高校の生徒からイベントの代表スタッフ2名の招集
- ・イベントに参加してくれる生徒の人数確認

辰巳通様  
津和野高等学校の皆様  
ご協力ありがとうございました



7班  
**花で溢れるまちづくり**  
 2年 山本佳奈 松本美咲季

テーマを選んだきっかけ

花が好き  
 観光地を作りたい  
 イベントを開催したい

プロジェクト内容

吉賀町に花畑  
観光地を作る

花を使った  
ものづくり

イベントの  
開催

しかし…

**プロジェクト  
変更**

土地を確保することが  
難しい  
 1から作り上げることが  
大変

**NEWプロジェクト**

学校の中庭改革  
 (3年生の引継ぎ)

学校の中庭に花壇制作・ベンチ作り

**仮説**

①リラックスできる場所  
 ②学校の美化  
 ③花屋さんにもメリット

これまでの取り組み

大学生との交流

FW

3年生に  
情報収集

草抜き  
土入れ  
花植え  
ブロック作成

(もったか花園)

草抜き活動の様子



調査フィールドワーク

もったか花園

今の子節に合う花の育てかたなどアドバイスをいただきました！

大学生交流や4校交流での気づき・アドバイス

【大学生交流】

- ・スライドの文字大きく
- ・違う学校などいろいろな人を巻き込むと◎

【4校交流】

- ・同じようなプロジェクトをしている人からアドバイス

今後の予定

- 後継者探し
- 花植え
- 定期的な手入れ

これまでに学んだこと

①実行力  
いろんなことにチャレンジすることができた。

②協働力  
たくさんの人を巻き込む力がついた。

お世話になった方

もったか花園さん  
花壇作りを手伝ってくれた  
生徒のみなさんと先生方

私達の活動に協力して下さりありがとうございました。皆さんが協力して下さったからこそ成功できた活動です。今後また、活動を続けていく中でお世話になることがあると思うので、その時はよろしくお願ひします。

## 8班 HEKICHI KAKINOKIを 盛り上げよう！！

メンバー

・浅尾 蒼馬 ・三浦 玲稀 ・房崎 凌音 ・小田 聖弘

## HEKICHI KAKINOKIって何？

吉賀町柿木にある旧柿木中学校を  
リニューアルして、地域の人が集まれる  
場所にする活動のこと

### HEKICHI KAKINOKIで 活動している方々



- ・田村さん(HEKICHI KAKINOKIの オーナー)
- ・円山さん(柿の木公民館の主事)
- ・赤羽さん(お茶を作っている方、元ゲーム開発者)



## HEKICHI KAKINOKI

↓内装



↑外装



↑主な集合場所

### 活動内容①

- ・HEKICHI KAKINOKIの方々との会議
- ・HEKICHI KAKINOKIの掃除×2

掃除中→



←掃除後

### 活動内容②

- ・赤羽さんとイベントの計画会議
- ・クリスマスイベント計画

(イベント内容)クッキー作り、サンタ・トナカイ工作



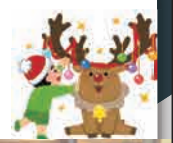
### クッキー、サンタ・トナカイ 作りってどんなの？

- ・クッキー
- ・サンタ・トナカイ



### 活動内容③

- ・クリスマスイベント準備
- ・クリスマスイベントの開催！！
- ・イベントの反省の会議

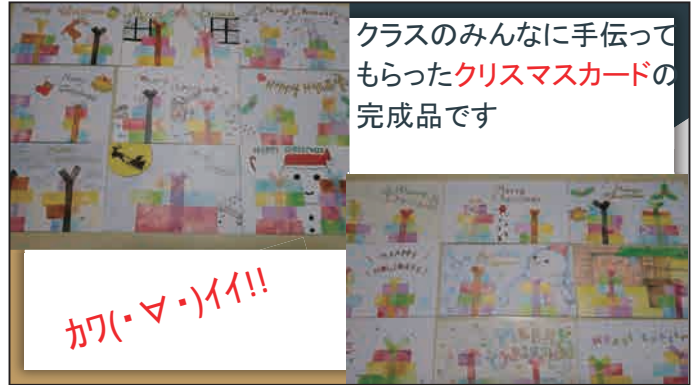


会議の様子→



## クリスマスイベント準備

- ・材料などの買い出し
- ・クッキーづくり(試作)
- ・工作のお手本づくり
- ・プレゼント用のクリスマスカードづくり
- ・チラシづくり など



カワ(・▽・)イイ!!

クラスのみんなに手伝ってもらったクリスマスカードの完成品です

## この活動をしようと思ったきっかけ

- ・吉賀に遊び場、集合場所が少ない
- ・授業で活動について知り、活用することが少ないことを知った
- ・友達に誘われた



## 僕らの活動成果

- ・HEKICHI KAKINOKIの活動に協力し、活動の支援をした
- ・クリスマスイベントの開催  
→参加者の方々に楽しんでもらった



## アントレで うまくいかなかったこと

- ・イベント準備
- ・イベント当日の時間配分
- ・行動が遅くなった



## これからのアントレについて

- ・アントレメンバー、赤羽さん達とイベントなどの会議をする
- ・イベントの計画は今のところ未定(考え中)
- ・クリスマスイベントでの反省を活かして活動していく



## 活動の中で 協力していただいた方々

- ・HEKICHI KAKINOKIの皆さん  
(赤羽さん、円山さん、田村さん)
- ・クラスの皆
- ・先生方

協力していただいた皆さん  
ありがとうございました!

# 吉賀町のゴミの課題

2年9班  
齋藤夢結・田丸昊

## プロジェクト

### 吉賀町のゴミの課題をなくす

きっかけ 小学生の時にリサイクルプラザ(埋立処分地施設)に見学に行ってあまりゴミが分別されてないことを知ったから

### 現状把握

～ゴミの分別の状況を知る～

リサイクルプラザ(埋立処分地施設)の笠江さんにインタビュー

- ・容器プラゴミは、1日に40～50袋くらいが分別されていない
  - ・中身が見えなかったり、カミソリや電池などが混ざっている
- 分別がされていないと作業の方が危険だし、大変になる

### 分別がされていないと...

加熱式タバコや電池が混ざっていた場合

発火・火災の危険性



命に関わる事故になる危険性も...



### 課題解決

～現在の状況を伝える～

#### まずは小学生に知ってもらおう

リサイクルについての勉強や見学がある

- 1.子どもが知る
- 2.親に伝える
- 3.一緒に実践する

### 活動実施

～小学生と活動～

柿木小学校5・6年生とゴミに関するワークショップ

- ・ゴミに関するクイズ
- ・色々なゴミがどのゴミ袋に分けられるか活動

### 活動の様子



### 活動の様子



## 活動を終えたあとの感想

先生方

小学生に難しい言葉もあったので少し説明があるとわかりやすい  
今年から吉賀町に来たのでゴミのことがよく分かって良かった  
クイズや実際の活動で楽しみながら学習ができたと思う

小学生

乾電池はプラゴミではなく有害ゴミだと初めて知った  
今日勉強したことを生かしたいと思った  
お父さん、お母さんにも話をしようと思った

## 成長・学び

### 計画実行力

課題解決に向けて細かい計画を立てることができた

### コミュニケーション力

アポ取りを通して物事をわかりやすく伝えることができるようになった

## 反省・改善点

小学校での活動時間を過ぎてしまった

- ・練習が不十分
- ・スライドを読む練習はしたけど、実際に分別するところを含めて練習していなかった

→全体を通してどのくらい時間がかかるのかリハーサルをする

## 今後の予定

地域のより多くの人に分別の大切さを知ってもらえるように活動する

- ・分別ポスターを作って貼る
- ・他の小・中学校などで授業をする など

## 最終段階

～分別のできる吉賀町を目指す～

小学生や地域の人に現状を知ってもらう

↓  
ひとりひとりが意識して分別をする

↓  
分別されていないゴミが減る

↓  
リサイクルされるゴミは増えるし、  
作業者的危険性は低くなる

## アントレの活動を通して

1年前は、人とコミュニケーションを取ることが苦手でしたが、電話でのアポ取りや小学校での活動を通してコミュニケーション能力を身につけることができました。周りの大人の方からアドバイスをもらいながらアントレを進めることができました。今回の反省を活かしながら3年次のアントレも頑張りたいです。

齋藤

## アントレの活動を通して

この1年間のアントレは地域の課題を考え、課題解決に向けて活動することができ、自身の成長にも繋がれたと思います。昨年度のアントレでは先輩に頼ってしまうことが多く、あまり自主的に行動することができていなかったけど、今回は二人での活動だったので、課題解決のための改善策など積極的に案を出ることができました。

あともう少しでアントレの活動は終わってしまうけど、今取り組んでいるプロジェクトをもっと深め、地域の課題について考えていきたいです。

田丸

## お世話になった方々

鹿足郡不燃物処理組合 笠江 竜介様

柿木小学校 教職員、5・6年生のみなさん

ご協力いただき、ありがとうございました！！

## 写真部を活かした活動しよう！

...

2年 10班 清水彩香 永田真帆



## きっかけ

コロナ禍で写真部の活動を増やしたい！

保育園などの様子を撮影

写真を通じてたくさんの人とコミュニケーションがとれる

## 現状

コロナ禍で写真部の活動が限られ、  
人と関わるのが少なくなった。

## 一年時のアントレ(1)

子供と関わり社会性を育む

昔は地域の年長者が年下の面倒を見ていたが、今は他のお姉さんお兄さんとの触れ合いが少なく、子供の社会性がつきにくい

→子供たちと一緒に制作活動をする事で社会性を作る

## 一年時のアントレ(2)

コウヤマキからスプーンを作る

なぜコウヤマキからスプーン？

→金属のぶつかり合う音が苦手な人でも使用でき、使う場面が多いから。

→木は熱を伝えにくいいため、熱いものを食べる時に便利だから

## フィールドワーク1

六日市保育所(園長先生)

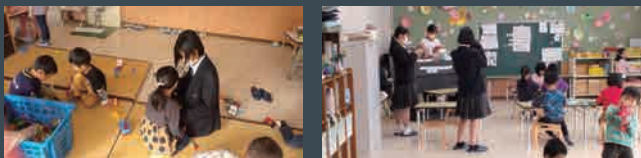
夏休みにお話を聞きに行った  
(質問)

- ・今、コロナが流行っている中でこの活動ができるのか
- ・写真を撮る時に、気をつけることは
- ・普段誰が写真を撮るのか

## フィールドワーク2

六日市保育所

実際に保育園に写真を撮りに行った



撮影した写真は、  
コピーして画用紙に  
貼り付けて保育園に  
プレゼントしました。

## 六日市保育園の職員へのアンケート

### 良かった点

- ・子どもの目線になって話をしてくれた
- ・保育中には撮れないであろう場面を撮っていたので子供の表情がよくわかった

### 改善点

- ・子供との距離を縮めてから撮るともっといい表情が撮れるかも、

## フィールドワーク3

六日市保育所(発表会)

12月10日に六日市保育所の発表会の写真を撮りに行った



## フィールドワークに行ってみた感想

アントレの活動もできつつ子どもたちと、コミュニケーションが取れてよかったと思った。子どもの自然体の姿をもう少し撮れるようにしたいと思った。



## フィールドワークに行ってみた感想

はじめは園児の写真をうまく撮れるか心配だったが、楽しそうに遊んでいる園児たちの写真を撮ることができたのでよかった。

## 成長したこと

写真を撮ることで子どもとコミュニケーションが取れた。いろんな表情の写真が撮れた。

自分から積極的に動けるようになった。

## 今後について

アンケートの改善点などを活かし、保育園以外の場所でも活動を行う。

## お世話になった方

六日市保育所  
(職員一同様)

## お世話になった方へのお礼

この度は私達のアントレの活動に協力して下さりありがとうございました。普段保育所で園児たちの様子を撮影することはないのでとてもいい経験になりました。



# アントレ

吉賀高校 2年 11班

坂崎 愛美香 三浦 彩乃

プロジェクト名

# LPTAS



～放課後一緒に遊ぼう～

( Let's play together after school )



私たちのアントレについて

1. ～なぜ、子どもをテーマにしたのか～

イベントができていない 思い出づくりが制限されている



仮説

自分たちがイベントをすることで  
コロナ禍でも子どもたちの思い出をつくることができ、  
相手の気持ちを考える力がつく...のでは？！



なぜ相手の気持ちを考えるがテーマ？

フィールドワーク(教育委員会 城戸さん)

**子どもは目的があった方が取り組みやすい**

→ **相手の気持ちを考える人になってほしい**

このコロナ禍の時代にはたくさんの困った人がいるなかだからこそ、  
助け合っていないといけないと思っています。そこで大事なことは相手の  
気持ちを考えることだと思ったので相手の気持ちを考えるをテーマと  
しました。

企画内容

～UVレジンで小物づくりをしよう～

UVレジンの写真



2. ～なぜ、UVレジンなのか～

- ・自由に好きなデザインを作りやすい
- ・贈る相手のことを思って作ってほしい
- ・地域の方に小学校でもUVレジンをやってほしい



3. 最終的に子どもたちにどうなってほしいのか

- ・子どもたちには目的をもって  
相手の気持ちを考える力をつけてほしい

4. 最終的に自分たちがしたいこと

- ・私達は思い出として活動写真を使って  
動画を作成し、プレゼントしたい



11月15日

七日市放課後サクラマスの企画の会議に参加

- ・私たちのアントレについて
- ・私たちが企画したもの
- ・この企画をしてこれからどうしたいのか



11月30日(水)

七日市放課後サクラマスでイベントを開催

テーマ:家族や友達にあげる小物づくりをしよう!

～相手の気持ちをこめて～

実際の活動写真



小学生が実際に作った作品



気づいたこと

**子どもたちが目的に対する取り組み方**

→「友達がこの色が好きだからこの色で作ってあげるんだ」  
「お姉ちゃんとお母さんにあげるんだ」などの  
相手の好きな色や相手が喜んでもらえるような作品に  
しようと子どもたちは頑張っていました。

改善点

**見本を見せる**

→ プレゼンやイベント当日にUVレジンの見本を持って行かなかったので教育委員会の方や小学校の先生方、子どもたちの想像を膨らませてあげることができなかったの  
で次回からは見本を見せたいと思ってます!

2回目のアントレ ～朝倉放課後サクラマス～

活動写真



感謝状

**(教育委員会の皆様へ)**

この度は私達が企画したUVレジンの企画を七日市放課後サクラマス、朝倉放課後サクラマスで開催させていただきありがとうございました。皆様のおかげで、無事に企画を進めることができ、子どもたちにも怪我がなく企画を終えることができました。企画から場所提供、準備までたくさんお世話になりました。本当にありがとうございました。

私達が3年生になってからも同じ企画でまたやりたいと思っていますので、来年度もよろしくお願ひします。

感謝状

**(七日市放課後サクラマス、朝倉放課後サクラマスの皆様へ)**

七日市放課後サクラマスでは昨年の11月30日、朝倉放課後サクラマスでは今年の1月23日に私達が企画したUVレジンの企画を開催させていただきありがとうございました。皆様のおかげで、子どもたちに怪我がなく、安全に企画を終えることができました。

子どもたちの笑顔、夢中になって作品づくりに取り組んでいるところに私達自身も懐かしく感じました。また、テーマとなっていた、「相手の気持ちを考える」というのも子どもたちはしっかり取り組んでいたと感じました。

本当にありがとうございました。また、子どもたちと関わりたいのでその時はよろしくお願ひします。

# サッカーを通じて 吉賀高校PR

12班  
2年 松谷 春輝

## きっかけ

- ・サッカー部員が少なく、集めたかったから
- ・生徒を集めることで  
吉賀高校や吉賀町に  
貢献したかったから



## 吉賀町のアピールポイント

人工芝グラウンド よしかみらい！



## 仮説①

- ・人工芝がある高校はめったにない  
→よしかみらいのアピールをすれば  
サッカーをしに来る人が増える



- ・吉賀町や吉賀高校には魅力がたくさんある  
→知ってもらえれば入学者が増える

例えば... 高津川！



## 仮説②

PRを行う上でSNSを活用すればより効果的になる

→インスタグラムを活用

地域みらい留学を通してアピールすることでニーズに合う

→地域みらい留学のサイトに部活紹介をつくる



地域みらい留学

高校直学 3years



## やること

- ・インスタグラムでの発信
- ・地域みらい留学のサイトへの書きこみ
- ・PR動画の作成

## PR動画

高校を紹介するときに流せるようなもの

<内容>

- ・高校の特色や吉賀町の紹介
- ・サッカーの環境についてPR
- ・5分くらいにまとめる

## 振り返り

Instagram

→・フォロワーが増えた 現在383人

- ・いいね！ をしてくれた人は吉賀町の方(吉賀高校の生徒を含めて)が多い

【課題】

他の地域の方にもみてもらう

投稿の頻度を多くする

## Instagramでの投稿①

「東京研修」



## Instagramでの投稿②

「大収穫祭にて、柿アイスと吉校パフェを販売」



## 振り返り

- ・まだサッカーをアピールできてない
- PR動画の中やInstagramで行事などをアピールする
- ・PR動画の作成が進んでいない
- 今年度中に完成させる

## これから行うこと

吉賀高校PR動画の作成

→・東京での地域みらい留学の

説明会で流して貰う

→・youtubeに投稿する

地域みらい留学のサイトへの書き込み



## これからやってみたいこと

・サッカー教室

→地域の小学校に行って、サッカーを通して交流する

<経緯>

・吉賀高校サッカー部でキッズリーダーの資格を取得

→それを活かして地域と交流したい

～よしかみらいでのサッカー交流の様子～



## お世話になった方

一般社団法人スポーツクラブ

Sparkle Star 代表 岩本 明彦さん

ありがとうございました！

# 動画を活用して地域をPR！

2-1-4 13班 北川颯良

## プロジェクトの 説明

このプロジェクトは去年に引き続き行っているものです。  
この約2年の間に青山学院大学生の岩瀬さんや、明星大学の田原洋樹教授、大正大学生や観光協会の齋藤さんなど、様々な方にアドバイスを頂きました。



大学生交流で  
大正大生の発表  
を聞いている  
様子

## きっかけ



吉賀町の魅力が町内外問わず、伝えられていないのではないか？

動画を地域PRに使えないだろうか

## 動画にすることの メリット



1:不特定多数の人間に見てもらえる

2:視覚から、聴覚からと多角的な表現ができる

3:文章に比べて気軽に見てもらえる

## いただいた アドバイス



1.動画を作る際にストーリー性がほしい

2:様々な観光地、食事(飲食店など)を動画に入れたらどうか

3:誰に届けたいか、どの年齢に届けたいかターゲットを絞る

4:まずは学校や吉賀町全体などの紹介から始めたらどうか

動画(1~2分)

...の予定だったが、ミスで動画データを消してしまった

## 苦労したこと



- コロナ禍で思うように活動できなかった
- 一人班なので、全て自分でしなくてはいけない

## 身についた力

- 臨機応変に対応する力
- 計画実行力

## 改善点

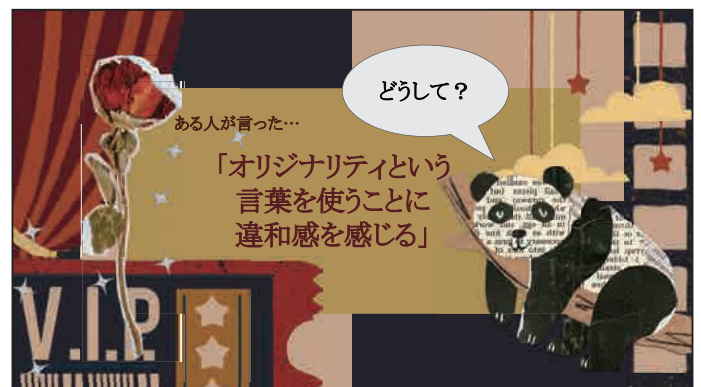
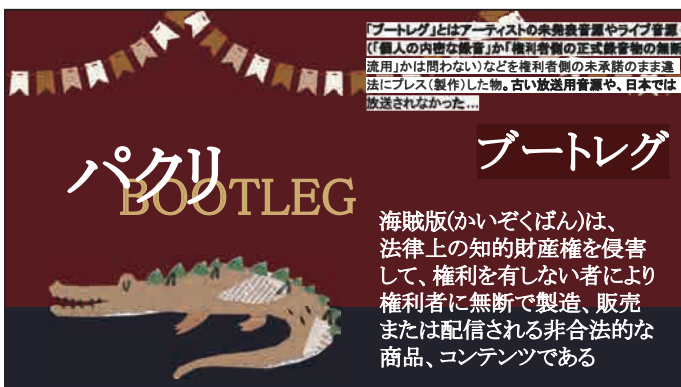
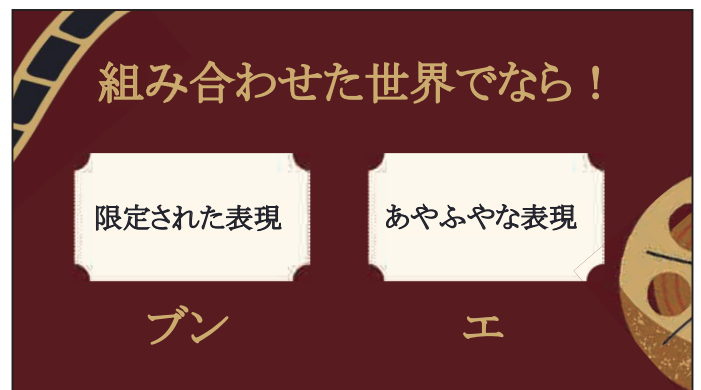
- バックアップ
- 積極性

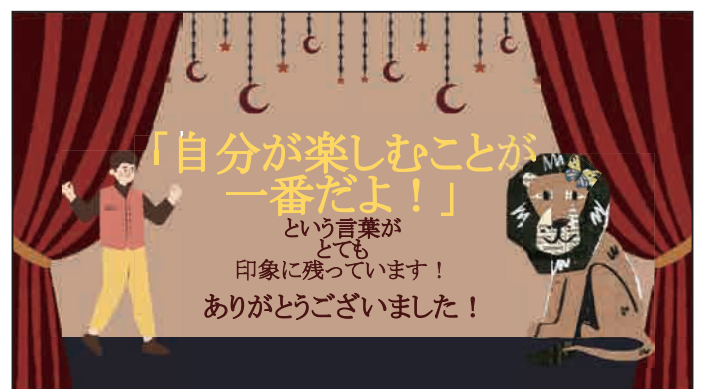
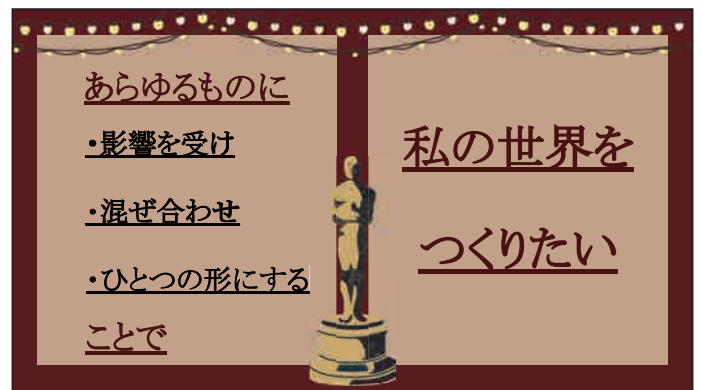
## お世話になった方々

- 岩瀬貴寛さん
- 田原洋樹さん
- 大正大学生の方々

## 3年時にやること

- 撮影場所を決める
- 撮影動画の編集







# 有機農業で商品開発

15班 土田阿子 仲野咲弥

## akoのきっかけ

一年前・・・子供をテーマとして子供のためのマップ作り

吉賀町の誇れるもので吉賀町を盛り上げたい！

現在・・・有機農業で商品開発して魅力を発信したい

吉賀町といえば...  
有機農業！！

## なぜ有機農業？

「有機農業」＝「柿木村」で知られている。

島根県は有機農業をほかの中国地方の県と協力して広める活動をしている。

※有機農業とは化学肥料や農薬に頼らず、丁寧な土づくりをすることで、そこに生息する多様な生き物と共生しながら行う農業のこと。

⇒吉賀町の今ある誇れるもの有機農業で吉賀町の魅力をもっと知って欲しい。

## なぜ商品開発？

有機農業の魅力をどうやったら一番知ってもらいやすい？

⇒有機農品を使ってそれを自分で加工して食べてもらうことが一番分かってもらいやすいのではないかな。

## sayaのきっかけ

一年前・・・多文化共生をテーマに外国の給食提供

吉賀町の魅力をみんなに知ってもらいたい！！

現在・・・食品開発で何かできないかな～

## なぜ商品開発？

料理やものづくりが好き！

⇒ 食品系？商品開発？

卒業生が作った「吉高ライスバーガー」や

ある大学のオープンキャンパスで紹介してもらった

「密どら」を見たり話を聞いて・・・

食品開発がしたい！！



吉高ライスバーガー  
密どら



## フィールドワーク①

小松原さん：島根県出雲市在住 有機農業者

目的 育てて栽培するだけでなく楽しめる場を作ること

商品開発をするにあたって大切なこと

リピートしてもらえるか  
沢山の人の協力を得る

## フィールドワーク②

森脇さん：松江市地域おこし協力隊 合同会社 武百円

Q. 製造過程で一番大変なこと

A. 労力もお金もかかる中で、上手く売れなかったとき

→商品開発目的になるよりかは、美味しいものを食べてほしい＝商品化！

やってくれそうな人と繋がる、探すことが大事！！

↓  
全部1人でやる必要はない

## フィールドワーク③

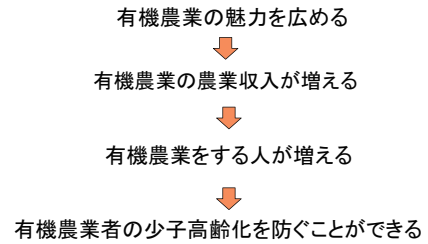
斎藤さん：吉賀町在住。有機農業をされている。

斎藤さんとお話して出た案

・季節の野菜ピクルス →大根、ブルーベリー  
・ドライベジタブル →冬の野菜

・ジャム →さつまいも、人参  
・わさびを使った商品？

## 仮説



## わさび×さつまいも のジュース

をつくることにしました！！

## 試飲してもらいました



## 意見

- ・味は美味しい
- ・ドロドロ過ぎてポタージュみたい
- ・わさびの味がしない
- ・全部飲むのはキツイ
- ・飲みすぎると喉がイガイガしそう
- ・ワサビ感が強い

## 気づき・学び

とりあえず挑戦！！

計画性を持つ！！

自分から動く！

色々な人の手を借りる！！

## これから

有機農業で作られたさつまいもを  
もらえるかアポ取り



有機農産物を扱っているお店に  
協力してもらえるか願います

## お世話になった方

小松原さん

斎藤さん

早田さん

森脇さん

ご協力ありがとうございました！

# 食品ロスの削減

2年 17班 伊藤星竜

～1年次の活動～



吉賀町を盛り上げたい！

高齢者施設に行き、レクリエーション

↓

笑顔

～2年次の活動～


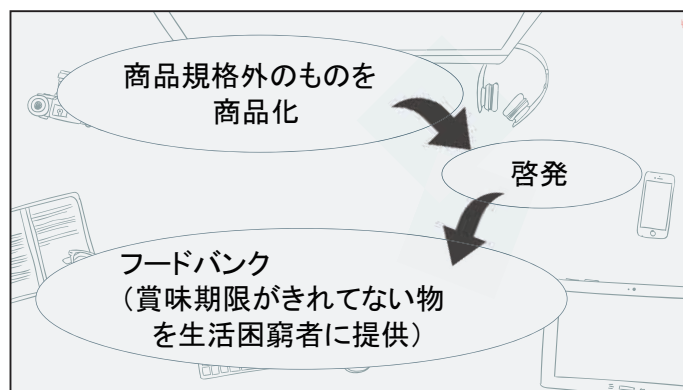
「食品ロス」(食べられるのに廃棄)

↓

<動機>

食べ残しに疑問↓

**減らすことはできないか？**

すぐに食品ロスをなくすのは難しい

↓


**活用できないか**

コンポスト : (堆肥、堆肥にする)

- ①設置
- ②生ゴミ投入
- ③完熟
- ④他の土と混ぜる
- ⑤堆肥として使える

↓


**配布して食品ロスに関心**



コンポスター

<寮の調理員さんの話>

- ・協力できる
- ・食べ残しが出ないことが一番



**堆肥化 + 啓発でロスや無駄を減らす**



### <仮説>

ゴミ(焼却量)が多い → 環境に悪い

堆肥化や啓発で無駄が減り、  
環境にも優しくなる



### <コンポスター>

ホームセンター(約3000円)



設置



投入

### <これから>

ロスや無駄  
を減らす

啓発

配布

堆肥化



### <学んだこと>

・大きなテーマに  
取り組むことは大変

・一人ですることは難しい

成長できるチャンス!?



### <成長>

・色々な考えを出す力

・一人でフィールドワークをしたり、  
発表したりできた



### <良かった点、成功したこと>

・何かだめでも、別のことを考える  
ことができた

・いろいろな人に話を聞いた

・一人でフィールドワークをしたり、  
発表したりできた



### <悪かった点、失敗したこと>

・スタートが遅く、なかなか進まな  
かった

・考えたことが難しそうだったり、  
すでに行っているものだった



### <お世話になった方々>

- ・齋藤 義徳さん(吉賀町役場)
- ・藤本 幸子さん(吉賀町教育委員会)
- ・都野 栞里さん(六日市小学校 学校栄養士)
- ・領家 真由さん(七日市小学校 学校栄養士)
- ・武岡 真由美さん(柿木小学校 栄養教諭)
- ・松本 さん(吉賀町社会福祉協議会)
- ・寮の調理員さん(川淵さん, 三好さん, 朝倉さん)

ありがとうございました!

# 1年間のアントレを振り返って

## ■ 1年生感想

- ・今年身についた力は自他を尊重する力です。プロジェクトがスムーズに進めれるように色々な案を出せました。それから、計画・実行力です。タレやそぼろを作る前にレシピを調べたり、事前に準備ができるようになりました。あと、東京研修で、大学生がまとめの資料を作ってくれたので、そこは、見習ってもっと役に立てるようになりたいと思いました。



- ・私が1年間の活動を通じて学んだことは主に3つあります。1つ目は、目標を明確にするものの大切さです。これは実際にあったことで、私の目標がはっきりしてないせいで、地域の方と上手く行かなかったり、自分でどうしたらいいかわからない時期があっただけで、目標をちゃんと明確にしておけばこんなことにならなかつたと後悔してしまった時があったので、この大切さを学ぶことができました。2つ目は実践をすることの大切さです。私は食品開発をしていて、実際に実践をしないと分からないことだらけです。実践をすることによってより良い発見や気づきが見えてきます。だからより良い食品の開発をするには実践を繰り返していきたいです。3つ目はまとめるとこの大切さです。これは大学生から学ぶことができました。大学生が東京研修のフィールドワークのまとめを資料にしてくださって、その資料が私たちの次の活動をよりスムーズにしてくれたので、やっぱり振り返りまとめることは大切なんだと感じました。そして私はその大学生のまとめ方を真似して、私もフィールドワークなので学んだことなどをまとめて資料にし、チームに共有するというのを一年間繰り返してきたので、まとめる力はすごく伸ばせたのではないかと思います。



- ・この1年間で大学生や地域の方などに報告したり相談することが大切だと学びました。なぜなら報告やどうしたらいいのか相談するときにはアドバイスやヒントを貰うことができたからです。また、伸ばせた力は発言する力です。今まで自分から質問したりせず、周りにまかせきりでしたが、アントレを通して、自分から質問や「こうしたらいいよ」と発言するようになったからです。

- ・アントレを通して学んだことは、人と関わる大切さです。今までも多くの方々と関わって来ましたが、あまり大人の方や大学生の方などに関わることがなかったのでとても貴重な経験になりました。伸ばせた力はリーダーシップです。班をまとめるリーダーとして成長できたと思います。



## ■ 2年生感想

・学んだことは、失敗から何かを得られることです。失敗をしなかったら第三者の意見など聞いていなかったら失敗をして気づくことはたくさんありました。第三者の意見を聞くことによって広い視野でプロジェクトを見ることができて、新たな視点の大切さに気づけました。



・昨年度と変わってペアで活動しているので、「自分たちのプロジェクト」という意識をもって活動しています。お互いの思いや考えを伝え合うことで、すれ違いがなく楽しいアントレ活動ができていますので協働する力を伸ばせたと思います。何事も自分から動かなければなにも生まれません、そしていろんな場所に行き挑戦をすることが活動をしていく上で大切なことだと学びました。また自分だけでやろうとせず、周りの人を巻き込むことで達成することや学べることがあります。

・この1年で計画実行力が身についたと思います。小学校で授業をするにあたって、しっかり予定を立ててからでないと成立しないし、内容も時間も細かく考える必要がありました。だけど、小学生に伝わりやすいよう臨機応変な対応を取れたのでよかったです。



・私が学んだことは、人と関わることの難しさです。私はもともと人と関わるのが苦手なので、自分から関わりに行くことがとても難しかったです。これからは少しでも人と関わることの苦手意識をなくして、自分から積極的に人に関わりに行けるようになりたいです。私が伸ばせたと思う資質能力は、他者と協働する力だと思います。1人では難しいことも同じ班の人と協力して活動をすることができたと思います。ペアの子が活動などのこと

について説明をし、私がスライドを作成するなどして協力しあうことができたと思います。

・一年間で学んだことは、地域の方に感謝することです。私たちのアントレは地域の方がおられるからこそアントレができています。アントレを成功させるのは私たちだけその成功までの道のりでヒントをくれるのは地域の方です。その道のりの中で私は感謝を学びました。私の伸ばせた力は人前で発表できることです。まだ私は人前で上手く発表はできませんがこの1年間たくさん自分の思いを発表する機会があり、少しは人前で発表できるようになったと思います。



## 吉賀高校アントレ 講評

青山学院大学 教育人間科学部 樋田 大二郎

私は毎年、アントレの発表会を楽しみにしています。楽しみにしている理由は、高校生と大学生の交流結果の発表会だからであり、町の大人と高校生の協働の結果の発表会だからであり、そして、吉高生が日本の高校教育を現場から改革している経過の発表会だからです。今年の発表会も、吉高生のたくさんのいい取り組みやいい表情に出会えました。なお、個々の発表に対しては当日会場で、コメントをしているのでここでは全体的なことをコメントします。

### 楽しんでいること、感謝する気持ちを育てていること

発表でとても印象的だったのは、吉高生がアントレを工夫したり、実際に取り組んだりすることを楽しんでいる姿だった。しかも、吉高生は自分たちだけで楽しんでいるのではなく、町の人と一緒に楽しんでいる様子だった。そして、異口同音に町の人「笑顔」が嬉しかったと語り、町の人が応援してくれたり受け入れてくれたりしたことや、それらの人に感謝する気持ち語っていた。

### 失敗から学ぶ力を育てていること

午前中の発表だけで無く、午後の代表に選ばれた発表も、1年間の取り組みの中で吉高生は様々に取り組みの途中でくじけたり内容を変更したりしていた。しかし、吉高生がすごかったのはそこで諦めずに挫折をきっかけに自分自身や町の問題を問い直し、再度チャレンジしたことだった。その過程では取り組みのそもそもやプロセスを自分の頭で考えたり振り返ったりすることで次の取り組みへの糧（かて）にしていた。そのようにして吉高生の取り組みが自分ごと化していた。

「自分ごと化」の定義は普通には目的意識や当事者意識を持って取り組むことであり、そのことはとても大切だ。しかし、今回感じた「自分ごと化」は、目的意識や当事者意識の持ち方だけでなく取り組みの方法の面でも、吉高生たちは教科書にあるとおりに参考書や問題集にあるとおりに学び考えるのではなく、自分で問いを立て、自分にできる方法で取り組んでいた。

失敗から学ぶ力にかかわっては、「計画をしっかりと作ることの重要性に気づいた」、「町の人とのコミュニケーションの取り方の重要性に気づいた」などの発表があった。個人の思いつきで場当たりの取り組みではないという意味で印象的だ。また、計画性とコミュニケーションについては、町の人や大学生との交流で課題や自分の取り組みを多様な他者や関係者の視点、先行的な取り組みや専門的な知識の視点から多角的に見ようとしている姿が見られた。大学や専門学校、社会に出てから役立つことが間違いない学びの姿勢だ。

## 自分の課題と町の課題や社会の課題を重ね合わせて考えていること

本年度は、食品ロスや商品開発への取り組みをはじめ、いくつかの発表で自分の町の課題が日本や世界の課題とつながりがあることを意識していた。

心理学では青春時代は自分たちの内面を大事にする結果、独りよがりになりがちな時代だと言われている。しかし吉高生の場合は、町の大人や仲間、先生方、大学生とつながりがあるからだろうか、独りよがりにならずに自分の課題を日本社会全体の課題や世界の課題との関わりの中で捉えようとしていました。新しい時代の高校教育が始まろうとしていることを感じました。



大正大学 地域創生学部 浦崎 太郎

毎年、高校生の探究発表会が続く2月。今年は高校生マイプロジェクトアワードの県サミットやアーカイブ動画も含めて9件の発表会に立ち会った。ただ、残念なことに、その中には、いささか違和感や不快感を覚える発表が含まれる会がなかった。大人の都合で設計され、大人に操られ、生徒は無意識のうちに大人に付渡し、優等生を演じている。そんな様子が透けて見える、それでいて見栄えだけはよい発表には胸が痛くなる。

それとは対照的に、吉賀高校の発表会は実に心地よいものだった。そう感じるのは、吉賀高校の生徒一人ひとりが、自分の感性を大切にし、自分の頭で考え、自分の足で立ち、自分の言葉で語っているから。換言すれば、自分の人生ストーリーと地域の課題とが交差するところで探究を進めているからだと思う。そして今回、そうした在り方が定着した印象を受けた。

これは、サクラマスプロジェクトを通して地域に対する一体感が醸成されているという土台。そして「一人ひとりが自身の将来に向けてキャリアを形成する営みの中に探究がある」という新学習指導要領の趣旨を深く理解し、年々改善に努めている学校だからこそ成しえたことだと思う。

それに加えて、卒業1年目の学年が3年生だった夏の最終発表会において、自身の経験にはどのような意味があり、それを進路の選択や実現にどのように活かしていこうと考えているのかを語り、それが後輩たちの心に響いた効果にも言及せずにはおれない。

それがどれほど意義深いものであるか。それは、吉賀高校を卒業して今は大正大学地域創生学部で学ぶ下野翔輝君の姿勢が、大学で高い評価を受けている点にも表れている。

午前中、9つの会場に分けて全員が発表するプログラムには頭が下がる思いがした。これは「どんなに拙く見える発表であっても、誰もが誠実な取り組みを通して成長を遂げたのだから、その様子を見てほしい」という自負がなければ、決してこうした発表会にはならない。実際、精一杯な姿には胸打たれるものがあった。では、その価値とは何か。日頃、大学生の様子を見ていて、自分が考えた通りに動けるようになるには膨大な時間を要するのを目の当たりにしている。吉賀高校でも、1年生から2年生にかけて別人のように成長した姿に、毎年のように出会っている。つまり、もがきにもがいて頭・心・体を繋げていく努力の先にこそ、思いや考えを世の中で発揮していける将来がある訳だ。この段階を高校時代にクリアできる価値は、非常に大きいものがあると言って良いだろう。



以上をふまえて、アントレに勤しむ意義をいっそう深めていくために、これから日々ぜひ意識してほしいのは「アントレの経験と進路や諸教科の学びとをつなげていくこと」だ。実は、閉会式の講評でお伝えしたことがこれにあたる。

一つは、挑戦の歩みを語りたくて仕方がない様子を想像できるテーマを見つけること。それが運よく早く見つかり、3年生の前半までに成果を取められれば、就職や入試で威力を発揮できる可能性も広がるだろう。「自分を素直に表現したら活躍できる道が開けた」という経験は、以後も繰り返し訪れる人生の節目において、必ずや心の支えとなってくれることであろう。

もう一つは、自分が目標にする人物を広い世界の中から見つけ、その人物が何にどう挑戦し、その過程で何をどう学び、どんな努力を重ねてきたかを探ることだ。それを自分のものにできれば「なりたい自分」に近づける可能性が高まるのは間違いない。その際、最も大切なのは読書だと思う。それは、読書をすれば自分と未来・世界・学業が自然につながるからだ。たしかに、これまで文字を追うことさえ苦痛だった人は多いかもしれない。しかし、アントレを通して経験を豊富に積み重ねた今は、書物の内容がスーッと染みていくことだろう。

一点、心がけてほしいのは、それらを先延ばしにせず「今できること」から実践していくこと。それは、見つかる時期やつながるタイミングが早いほど、毎日の生活、とりわけ日々の授業における気づきや発見、高校3年間で学ぶことの総量が変わってくるからだ。

コロナ禍にあっても進化を続けてきた吉賀高校のアントレ。これまでの実績を土台に、ぜひ次なる高みを目指して挑んでいただきたい。



法政大学 キャリアデザイン学部 寺 崎 里 水

今年のアントレの成果の発表を聞いて、印象に残ったことがいくつかあります。

### ●やりたいことを大切にしている活動が増えました

午前中から発表を聞いていて、個々人のやりたいことをやった、という報告が以前よりも増えたと感じました。もちろん、最初に思いついたことから、実際に実現できたこととの間には差があると思いますが、みるからにやらされた感のある活動報告は減りました。そういう意味では以前より「主体的に」活動に取り組めるようになったのではないかと評価しています。学習活動という観点からいうと、せっかくやりたいことをやれるようになったのだから、その活動が自分自身や社会にとってどんな意味があるのかについては、陳腐な定型文に頼らず、周囲の大人を説得できるだけの語彙を駆使して説明してほしいと思いました。指示されたことに嫌々ながら取り組んでいたときのほうが、町や社会の仕組みに関する知識や語彙が増えていたような気がします。やりたいことをやっているのだから、それに関する知識や語彙も、より情熱的に、より「主体的に」調べて、使いこなせるようになってほしいものです。

### ●自分自身に丁寧に向き合っているようです

多くの発表で、活動を通して、自分が、どういう活動に苦手感があって、それを克服するためにどうしたのか、何ができて、何ができなかったのかということについて、きちん

と評価しようとする態度がありました。自信のあること、できることだけをやっていると、ほとんど成長はありません。ちょっと背伸びして活動に臨み、なんとか達成できたという経験をすると、その背伸びの分、成長します。今まで苦手だったけど、苦手じゃなくなりましたという報告を、とても嬉しく聞きました。また、とくに1年目のアントレの活動は、町のことを知るのと同時に自分自身について知る機会でもあります。今まで、自分はこういうタイプだと思ってきたけれど、ああいうこともできるタイプだった、友達と協力して活動していくなかで、意外なことにこんなふう活躍できたという、自分自身の再発見の報告は、もっとあっていいように思いました。

### ●人の力を借りる力・人に頼る力が身についているようです

明らかに一人では実現できないような規模の大きい活動計画を立てたときに、上手にコーディネーターや町の人々の力を頼ることができています。また、一人でできる活動でも、不安があるときに友達や先生などの力を借りることができていることは、いいことだと考えます。従来日本社会では人に頼ることや弱音を吐くことは、一人前の大人になるにつれ、なくなったほうが良いと考えられてきました。けれども、現在、周りの人に自分の活動について相談して考え方を共有したり、活動のなかで抱いた不安を打ち明け理解を求めたりすること、ときには背中を押してもらい安心感を得るとは、社会的孤立から自分を守るために人が備えておかなければならない力だと考えられるようになっていきます。最初から人をあてにして、自分が楽できるように活動を計画することは、吉賀高校のアントレの活動の趣旨からするとよくないことですが、その境目はあいまいで、高校生ではなく周りの大人が判断するところだと私は考えます。

ついでに、人のアントレの活動に対して、自分がどういうふうに力を貸すことができたのかについて、発表のなかでふれている人はほとんどいなくて、午前中、質問のなかでちょろっと述べている生徒がいたくらいでした。せっかくなので、人を励ましたり、力を課したりした経験についても、報告のなかで教えてくれたらいいなと思います。

### ●プレゼンテーションとしての形をまとめる力が高くなりました

スライドに個々人のセンスがよく表れていました。文字にすることが得意な人もいれば、絵や写真を使って表現したい人、スライドに頼らず、自分の言葉で伝えたい人など、いろんな力の持ち主がいるので、それぞれの持ち味がいかされたプレゼンがすばらしいと思いました。アントレの活動自体は年度末にむけて、なんとかそれっぽい形に間に合わせたものだったとしても、スライド自体はよくできているものが多かったです。こういう形にするという指導があったのだと思いますが、プレゼン力の底上げができていると感じました。

### ●発表することやそれに対して質問をすることのためらいが減りました

上に関連して、発表すること自体に緊張している生徒は多かったですが、数年前の状況に比べるとみんな堂々としていました。また、発表に対する質問や感想も活発に出ていました。人前で発表すること、発言することが当たり前で、それに対して誰もちゃかしたりしないという雰囲気は、当たり前だと思うかもしれませんが、貴重なものです。学校全体でそういう雰囲気をつくりあげてきたことが、とても素晴らしいと思いました。

#### ◇町や社会に対する関心をもっともってほしいです

自分自身のやりたいこと、自分自身のできたこと・苦勞したことなど、自分自身に対する関心は大事にされていますが、それに加えて、町や社会の出来事、仕組みに対する関心をもっと育ててほしいです。こんにちの若者は、自分とうんと親しい友達、同居する家族までの、だいたい身の回りの半径5メートルしか想像力が働かないと揶揄されています。こうならないように、とくに1年生の活動は、自分自身の周りの出来事からより遠くの出来事へと、関心と想像力、知識を広げていくきっかけになってほしいです。厳しい現実について恐れず目を向けて、「現実のものごとに万能な解決策なんてないんだ」、「高校生一人が知り得ることには限界があるんだ」などと思い知ることがあってもいいと思います。それがさらなる教科学習の原動力になったり、職業選択や進路選択の動機付けになったりすることがあるからです。高校生としての学習限界に憤った高校生から、「どの学部にいったらこういう問題について真剣に考えることができますか」と質問される日が来るのが、この活動に携わる大学教員としての夢です。

#### ◇高校生ならではのワクワクやイキイキが薄まっている気がします

プレゼンや発表について、質があがって、いわゆる「こなれ感」が出てきている一方で、プロジェクト自体のワクワク度やイキイキ度は低くなったような気がします。活動において何を重視するかの違いですが、現在の方向性はプロジェクトを発表したときの完成度を高めることを重視しているように見えます。実際に発表の完成度は高くなっていますが、いやな言い方をすると、「1年間でそこそこの結果を得られる程度」のサイズ感に活動が抑制されています。誰もこれまでに思いつかなかったようなアイデアと勢いがあってワクワクするけれど、とても1年では成果がでないようなインパクト重視のものがあってもいいなと思いました。バカだなーと苦笑してしまうけれども、よーし、そんならちょっと大人が助けてやるかと思うような、ワクワクとドキドキを提供するプロジェクト案が出てきたときに、1年では結果に至れなくても、その芽を大事にしてほしいです。

#### ◇町外生と町内生の相互作用はどうなっていますか

町外の生徒と町内の生徒がかかわることで、相互にいい影響を及ぼすことが期待されていますが、実際にはどうなのでしょう。今年、1年生は町外生だけのグループがあったようです。せっかく多様な生徒を受け入れているのだから、その多様性をいかした活動をして、互いの知識を交換しあう機会に、アントレがなるといいと思います。



青山学院大学 教育人間科学部 大木 由以

#### ◆しっかりした発表が多く驚きました

午前中、教室の様子には十分には分かりませんが、生徒がコメントや質問を述べている様子が窺えました。経験を積んだ2年生もそうですが、1年生にもしっかりした発表が多くて驚きました。午後の部については、選抜メンバーということもあり、迫力のある発表を聞くことができました。

#### ◆学んだこと・変わったことをもっと聞きたいです

発表では、反省点として“計画的に動くことが必要だった”“準備が不足していた”ということが多く挙げられていました。そうした中で、反省を踏まえて「手帳を持つようになった」という日常生活上の変化を挙げている発表がありました。他のみなさんについても、反省をしたうえで、どのような行動・態度の変化があったかを知りたいと思いました。

#### ◆地域社会にとってのプロジェクトの意味を意識するともっとよくなりそうです

プロジェクトを通してどのように成長したかを見つめ直す作業はとても大事なことです。評価のポイントでもありますね。そこから更に踏み込んで、身近な地域（吉賀町）の中でのプロジェクトの意味、さらには社会（他の地域も含めて）の中のプロジェクトの意味を考えていけると、プロジェクトを通じた学びがさらに深まりそうです。そのためにも、記録をつけたり、情報を集めたりする過程を大事にすることが必要になりそうです。

#### ◆プロジェクトを通して社会を知ること意識すると探究が深まりそうです

各プロジェクトには、様々なかたちで社会を知るきっかけがみられました。時間が限られた発表では紹介しきれなかったかもしれませんが、発表を聞きながら、“せっかくなので調べたことをきちんとまとめたらおもしろそう”、“もったいないな”と感ずることがありました。例えば、町の財政状況や狩猟のルール、食品加工に関する情報等です。フィールドワークでヒントを得たならば、そのヒントを手掛かりにして追加で情報を集め整理することで、学びが深まっていきそうです。

#### ◆〇〇力とは何か？

皆さんの発表では、“プロジェクトを通して〇〇力が身についた”という説明が散見されました。中には十分に言葉を尽くしている人もいましたが、〇〇力に対してさらに踏み込んだ、丁寧な説明をすることでプレゼンテーションを充実させたり、自己分析を深めたりすることにつながりそうです。気づいたことを丁寧に言語化して説明することは、学習機会を提供してくれた方へのフィードバックにもなりますし、学習の記録としても意味があるものになります。例えば「コミュニケーション力が身についた」という説明で終わりにするのではなく、ここでいうコミュニケーション力とは具体的にはどのようなことを想定しているのか、その力を身に付けることによってどのような意味があるのか等を言語化できるといいですね。



日本女子大学 家政学部 樋田 有一郎

2022年度のアントレ発表会では、当日の講評の中で何人かの先生がお話しされたように、生徒が楽しみながら工夫したり町の人と交流したりしていることが報告されました。そのことがとても印象的でした。私の講評では、このあとそれ以外のことで印象的だった5点について書きたいと思います。

第1は、町や自分自身の強みを探して（知り）、それを生かそうとしていたことです。と

りわけ、老人福祉他の発表で、住民の密で思いやりの深い人間関係を基盤にして取り組んでいました。できないことを嘆いたり、できないことをお金でむりやり実現しようとするのではなく、できることに焦点を当て、取り組んでいる姿が印象的でした。失敗しても楽しみながら再度チャレンジできたのは町や自分自身の強みを活かしているからこそ出来るのだと感じました。

第2は、吉高生のみなさんが、自分の物語を紡いでいることが印象的でした。たとえば、将来、高校時代に何をしましたかと聞かれたら、みんなと同じように受験勉強していましたとか、みんなと同じように部活に励んでいましたと答えるのではなく、吉高生だったら「アントレでこんなことにこんな風にチャレンジをしてこんな風に成長しました」と言えるだろうと思います。羨ましいです。

第3は、ITを活用した取り組みが深まっていることが印象的でした。昨年、お買い物代行の取り組みがあって感動したのですが、今年は幼児の学びを画像で残す取り組みやTIKTOKを使って高校生活を伝えるとりくみその他のSOCIETY5.0の時代を先取りした取り組みが深化していました。

第4は、協働が進んでいることが印象的でした。生徒同士の協働では、午前中の発表会では生徒同士が質問しあったり、アドバイスし合ったりしていました。普段の取り組みのチームワークの良さもここかしこで感じられました。アントレをきっかけに吉賀高校の学びが活性化していることが分かりました。さらに一部では、自分の取り組みと他の生徒の取り組みをコラボレーションする動きが見られました。コラボレーションはきっと思いがけぬ成果を生み出してくれるでしょう。地域との協働では地域の大人が高校生を支えようとしている感じが感じられました。生徒の大人から学ぶ姿勢が大人の心を揺さぶったのだと思います。生徒は発表の各所でコミュニケーションを上手にとることが課題だと言っていたましたが、そうした姿勢が伝わっているのだと思います。地域の大人が本気になったという意味で、アントレは地域活性化に貢献しているのではないのでしょうか。

最後に、アントレプレナーシップの捉え方が印象的でした。アントレプレナーシップとは狭い意味では起業すること、企業や仕事をスタートさせることです。しかし、吉高生のアントレを見て、アントレプレナーシップは広い意味では仕事や社会の課題をみずから見つけ、みずから解決しようとする事なのだ、ということを感じました。

ひと時代前の高校の校外学習は、企業や商店を訪問して説明を受けたりしました。インターンシップと言う名前で仕事体験をすることもありました。福祉施設等でボランティア体験をすることもありました。吉高生の校外学習はそれらとはまったくもって似て非なるものでした。吉高生は自分たちの思いに突き動かされて町に貢献しました。最初は思いつきに近い知識や動機だったものが、人に会ったり自分たちで調べたりしながら、町に必要なことや町の利活用可能な資源を調べ、自分たちに出来ること、自分たちの強みを活かすことをやろうとしました。しかし、そう簡単に計画は実現しませんでした。そこで、さらに調べたり計画をブラッシュアップしたり、コミュニケーションを工夫して協働の関係を作り上げたりしました。吉賀高校生のアントレは、社会貢献することの体験学習であり、探究学習であり、キャリア学習といえるのではないのでしょうか。

高校時代に上述のようなアントレが学べることは幸せだと思います。そして、それを可能にする町の大人、吉賀高校の先生、そして同級生がいることがすごいことだと感じました。

# 子ども、高齢者の安全を守る

津和野、吉賀両高校生と教職員

## 事故防止へ積極声かけ

危険な歩行者を発見した「を促し、子どもや高齢者の  
際、声をかけて安全な行動」安全を守る活動に津和野高



「鹿足ケアテイカース」の委嘱を受けた  
関係者＝島根県津和野町森村、津和野高

校（島根県津和野町後田、  
生徒200人）と吉賀高校  
（同県吉賀町七日市、10  
4人）の生徒と教職員が取  
り組む。

津和野署が20日、両校を  
「鹿足ケアテイカース」に  
委嘱した。ケアテイカース  
はケア（世話や配慮）を提  
供する人の意味で、津和野、  
吉賀両町の鹿足郡は高齢化  
率が高く、高校生に見守り  
役をしよう。

道路を横切ろうとしたり  
道の真ん中を歩いていた  
り事故につながるかねない  
歩行者を見つけ次第、積極  
的に声をかけ、必要な場合  
は警察に通報する。

高校による社会貢献活動  
の一環として交通事故防止  
を図るとともに、両校の生  
徒にも安全意識を高めても

# 出雲 石見 鳥取

藤下 明季  
(高専中2年)

らう狙い。期間は1年。県  
内では初の取り組み。  
この日、津和野署であつ  
た委嘱式で松島和博署長は  
「活動によって悲惨な事故  
がなくなることを期待す  
る」とあいさつ。委嘱状を  
受け取った津和野高校の宮  
島忠史校長は「危ないと思  
つたら勇気を出して声かけ  
をするよう学校全体で心が  
ける」とし、交通安全のの  
ぼり旗をデザインした吉賀  
高校美術部の河野歩羅さん  
(16)は「2年間は「自分たち  
も普段から安全を意識した  
い」と話した。  
今後は定期的に署員が高  
校に立ち寄り、情報提供や  
聞き取りをしながら活動を  
進める。（藤本ちあき）

(山陰中央新報社：  
令和4年5月21日付)

## 寄り添う看護したい

【松江】ナイチンゲール表したほか、看護師による誕生日にちなむ「看護の日」(5月12日)に合わせ、島根県看護協会が主催する「記念のつどい」が14日、松江市学園南1丁目、のくにびきメッセで開かれた。県内の高校生が看護にまつわるエピソードを



表を松江市学園南1丁目、のくにびきメッセで発表する向井陽菜さん

「心に残る看護エピソード」には9校60人が応募し、最優秀賞に吉賀高校3年の向井陽菜さん(18)が輝いた。

紙面編集・齊間 大輔

向井さんは低出生体重児だった自身を産んだ母と、担当の看護師の交流を紹介。赤ちゃんの健康状態を心配する母に、看護師は大口を開けて産声を上げる写真を見せて元気づけた。向井さんも看護師を目指しており「患者や家族の苦悩に気づき、寄り添う看護をしたい」と語った。

松江赤十字病院の看護師新崎美希さんや訪問看護の「花みずきナースステーション」(松江市国屋町)の高橋京子社長ら4人が登壇し、患者から感謝されることなど仕事のやりがいを発表。医療関係者や市民など約180人が参加した。

(佐貫公哉)

(山陰中央新報社：令和4年5月17日付)

政策金融公庫

## 吉賀高生に出張授業 起業プラン発案法



生徒にビジネスアイデア発案の考え方を伝える岩成達也講師—吉賀町七日市、吉賀高校

高校生に起業プランを募る「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を主催する日本政策金融公庫が18日、吉賀高校(吉賀町七日市)で、出張授業をした。創業支援担当の職員が生徒に、ビジネスアイデアを発案するための必要な視点を伝授した。

同公庫中国創業支援セン

ターの岩成達也さん(36)が講師として登壇。ビジネスとはニーズを満たす商品やサービスを提供し報酬を得ることだと説明。「もっとこうなら良いのに、ということが日常にたくさんある。それがアイデアの一歩だ」と伝えた。

紙面編集・安部 享雄

野村あずささん(16)は「ニーズと自分のしたいことを考えながら、社会のためになることを探したい」と話した。(藤本ちあき)

(山陰中央新報社：令和4年5月19日付)

# 放置柿のアイス販売

## 吉賀高生 収益鳥獣対策資金に



柿のアイスクリームを販売する吉賀高校3年の李内恵里さん（左から3人目）（吉賀町有飯、道の駅むいかいち温泉産直物産館やくろ

# しまね

題字  
大甲 朱音  
(乃木小6年)

鳥獣被害の原因となる放置された柿を有効活用しようと、加工品作りに取り組む吉賀高校（吉賀町七日市）の生徒が、地元企業と協力してアイスクリームを商品化し、道の駅・むいかいち温泉の「産直物産館やくろ」（同町有飯）で27日、初めて販売した。

社会を創造する力を養う「アントレプレナーシップ教育」の一環で、放置された柿を商品化し、収益を鳥獣対策の資金にする循環型のプランを生徒が発表。3年の李内恵里さん（17）が、昨年収穫した富有柿をジャム状にしたものを活用したアイスを考案し、町内の農業、酪農業「山吹グリーンファーム」に持ちかけ、柿ジャムを混ぜ込んだ「柿アイス」ができた。

売り場に立った李内さんはマイクを使って「柿のアイスを販売しています。売り上げの一部は電気柵やおりの購入に充てます」と呼びかけた。1年生2人と、同校と交流を続ける青山学院大（東京都）の学生2人も手伝い、用意した130個を売り切った。

1個350円で販売し、そのうち100円が同校に渡る。その全額を鳥獣対策に活用してもらったため後日、町産業課に依頼する。李内さんは「地域の人が応援してくれてうれしかった。今年も収穫し、少しでも多く資金を役場に持つて行きたい」と話した。

柿アイスは近く、道の駅・かきのきむら（同町柿木）でも販売する予定。  
(藤本ちあき)

(山陰中央新報社：  
令和4年8月30日付)



# 吉賀高生 パウンドケーキに加工

鳥獣被害の原因となる放置された柿を有効活用した加工品作り、吉賀高校（島根県吉賀町七日市）の生徒が取り組んでいる。第1弾でパウンドケーキの試作品が完成。販売収益は防護柵などの購入に役立ててもらおう計画で「迷惑だった柿を、町を守る柿に変えたい」と意気込む。

（藤本ちあき）



実がなり過ぎて困っていた住民の柿を収穫する生徒。島根県吉賀町真田（2021年11月、吉賀高校提供）

## 厄介な柿で町守る

毎年秋に町内ではたくさん木が多い。収穫されな  
んの柿の実がなるが、高齢い柿は落下してイノシシな  
化が進み、管理できなくな どの格好の餌となり厄介

### 鳥獣被害防止へ活用



試作した柿のパウンドケーキを手する李内恵里さん（右）  
島根県吉賀町七日市、吉賀高校

な存在。地域の悩みの種  
を解決しようと、3年生の  
李内恵里さん（17）と三原レ  
イナさん（17）、2年生の河  
野歩羅さん（16）が立ち上が  
った。  
同校が取り組む「アアント

レプレナーシップ教育」の  
一環で、昨年に住民の許  
可を得て、収穫に手が回ら  
ない富有柿を200個ほど  
収穫。

町営の加工場で砂糖漬け  
やペースト状に処理して保  
存し、4月にこれを使っ  
てパウンドケーキを試作  
した。

町内のイベントなどで販  
売する予定で、パッケージ  
やキャラクターも考案。販  
売収益は町に寄付し、鳥獣  
被害を防ぐための防護柵や  
おりの購入資金の一部に充  
ててもらおう。

捕獲したイノシシの肉と  
柿を使ったつくだ煮などの  
商品化も検討中。李内さん  
は「柿の新しい食べ方を広  
めたい。後輩に引き継ぎ、  
継続的な取り組みになって  
ほしい」と話した。

（山陰中央新報社：  
令和4年5月14日付）